

- A 達成
- B ほぼ達成
- C 取り組みがやや不十分
- D 取り組みが不十分

平成25年度年度計画・機関別認証評価・JABEE項目 関係部署対応表

【最左欄】		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書部長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	教育課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	「◎」 「○」	△を取り纏めてコメント 該担当者コメント記入 コメント未記入(◎と連携)	担当者 評価	項目 別 評価	事項 別 評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 「○」	△を取り纏めてコメント 該担当者コメント記入 コメント未記入(◎と連携)
I 業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置																																
1 教育に関する事項																																
(1) 入学者の確保																																
15	認	4	1	①	アドミッション・ポリシーの教職員への周知および社会への公表	○																		学校要覧(P.2)、本科募集要項(見直し)、入学案内リーフレット(P.1)に記載し、教職員へ周知するとともに、社会へ公表している。受験生とその保護者に向けてはこれらに加えて、学校説明会や一日体験入学の際にスライドで説明している。(教務)	B(教) B(専)	A	A	学校説明会、一日体験入学どでは説明してきたが、教職員へも周知したい。(教務)				
2	認	4	2	②	アドミッション・ポリシーに基づく入学選抜の実施	○																		入試運営委員会(第3回、7月18日)で、募集要項記載のアドミッションポリシーを確認した。(教務)	B(教) A(専)	A		入試運営委員会で、数学の合格最低点や科目による傾斜配点を検討している。(教務)				
3	認	4	3	①	実入学者数の適正化	○																		平成26年度の入学定員は40名×5学科の200名であり、合格者数は各学科42名×5学科の210名とした。これに対し、入学者は総数で208名、学科別では機械42名、電気電子41名、制御情報42名、生物応用化学42名、材料41名であり、総数、学科別とも適正な範囲内であった。(教務)	A(教) A(専)	A		これまでどおり受験者の動向を見定めつつ合格者数を決定する。(教務)				
4	I	1	(1)	①	教員による中学校訪問	○																		8月18日、19日の一日体験入学(300人×2日)の案内のため、6月24日から7月12日の間に教員16名が中学校118校を訪問した。また、受験案内と、9月7日の佐賀市および9月28日の福岡市での学校説明会の案内のため、37名の教員が8月下旬から9月下旬の計画で中学校223校を訪問した。(教務)	A(教)	A	A	定員超過により一日体験入学への参加をお断りした場合があった。訪問先を精選するか体験入学の開催方法を改善する。(教務)				
5	I	1	(1)	①	学校説明会・見学会の実施	○																		8月18日、19日に中学生を対象とした一日体験入学を行い140校585名の参加があった。9月7日の佐賀市での学校説明会(有明高専、佐世保高専と合同)では全体説明に77名(含む保護者)、それに続く個別相談には20名の参加があった。9月28日の福岡市での学校説明会(有明高専、北九州高専と合同、瀬戸内3商船高専も参加)では全体説明に190名(含む保護者)、それに続く個別説明には122名の参加があった。この他、10月19日本校での学校説明会と見学会、11月9日に同じく本校での学校説明会を予定している。(教務)	A(教)	A		体験入学は定員を上回る申し込みがあった。福岡市での説明会、学校説明会は例年に比べ僅かながら減少していた。中学生やその保護者への広報の方法を考える。(教務)				
6	I	1	(1)	①	高専合同学校説明の実施	○																		9月7日、佐賀市で有明高専、佐世保高専との合同学校説明会を開催した。この説明会では全体説明に77名(含む保護者)、それに続く個別相談には20名の参加があった。9月28日には福岡市で福岡県3国立高専(本校、有明高専、北九州高専)合同説明会を開催し瀬戸内3商船高専も参加した。また、九州内の高専からはパンフレットの提供があった。この合同説明会では、全体説明に190名(含む保護者)、それに続く個別説明には122名の参加があった。(教務)	A(教)	A		平成26年度入試に於いて本校の志願者が約70名減少しており、説明内容を見直す。(教務)				
7	I	1	(1)	①	入試説明懇談会の実施	○																		中学校教員を対象とした入試説明懇談会を10月28日に久留米市で、10月29日に福岡市で開催予定である。(教務)	A(教)	A		提示スライドと配付資料の対応がわかりにくいという指摘があり、これを改善する。(教務)				
8	I	1	(1)	②	一日体験入学の実施及び募集のための中学校訪問	○																		8月18日、19日の一日体験入学(定員300人×2日)の案内のため、6月24日から7月12日の間に教員16名が中学校118校を訪問した。(教務)	A(教)	A	A	定員超過により一日体験入学への参加をお断りした場合があった。訪問先を精選するか体験入学の開催方法を改善する。				
9	I	1	(1)	②	中学生やその保護者に対する学校見学会対応	○																		6月21日に羽犬塚中学校PTA約40名、6月25日に柳原中学校生徒4名の訪問を受け入れた。今後、10月4日に太宰府中学校PTA、10月17日に久留米市北野町の中学生保護者の訪問が予定されている。(教務)	A(教)	A		希望については全て対応した。来年度も可能な限り対応する。(教務)				
10	I	1	(1)	②	学科別公開講座の実施											○	○	○	○	○	○	○		機械工学科では、夏季休業中の7月24・25日、8月7・8日に中学生向け公開講座「ソーラーカーを作ろう」を2回実施し26名の参加者を得た。後期には、8月、9月、11月の3回社会人向け公開講座(CAD講座)を実施した。(機械)	A(機) A(電) C(制) A(生) B(材) B(文) A(理)	A		中学生向け、社会人向けとも好評であるので、来年度も社会貢献の一環として、継続する。(機械)				
11	I	1	(1)	②	女子中学生向けパンフレットの活用	○																		「キラキラ高専ガール」を、中学校訪問や一日体験入学、学校説明会で配布している。(教務)	B(教)	A		高専女子百科Jr.の久留米高専版の発行を検討する。(教務)				
12	I	1	(1)	②	女子寮のPR	◎																		本校学生を対象に体験入寮を前期2回(後期2回予定)実施した。外部に対しては募集要項、学校要覧、リーフレット等に女子寮の設置を記載し、8月本校開催の一日体験入学での中学生の保護者への学校説明、9月開催の佐賀市および福岡市での学校説明会でこれらの資料を配付するとともに、スライドで女子寮を説明した。また、10月に本校で開催予定の学校説明会・見学会ではこれら資料の配付・説明に加え寮の見学会を実施する予定である。その他、本校を見学する中学生および保護者にも女子寮が設置されたことを説明している。(教務)	A(教) A(寮)	A	A	引き続き、女子寮があること、定員に達しているが毎年遠方の学生より入寮していることを伝え、その利便性を知らせていく。(教務)				
13	I	1	(1)	③	中学校への本校紹介情報充実	○																		本校Webページのトップページに「受験生のみなさんへ」というタブメニューを設け、アドミッションポリシー・入試情報、就職・進学状況、クラブ活動、学内施設、高専祭および学科紹介を掲載している。(教務)	A(教)	A	A	引き続き広報に努める。(教務)				
14	I	1	(1)	④	有明高専との福岡市入試同一試験会場開設	○																		平成26年2月18日の本科入試学力検査について、福岡市検査場を有明高専と合同で設ける計画であり、募集要項に記載している。(教務)	A(教)	A	A	引き続き実施し、有明高専との合同説明会では福岡市での同じ会場で受験できることを説明する。(教務)				
15	認	4	2	②	アドミッション・ポリシーの検証とそれに基づく入学選抜方法の改善	○																		入試運営委員会(第3回、7月18日)で、募集要項への記載を確認するとともに、アドミッションポリシーに基づく入試方法の改善について検討を開始することとした。(教務)	B(教) B(専)	B	B	入試運営委員会で、数学の合格最低点や科目による傾斜配点を検討している。(教務)				

【最左欄】		学生主事	専攻主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	コメント
ローマ数字	年度計画に記載の項目	◎	○																		「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	B(教) B(専)	B	B	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	
16	I 1 (1) ⑤	入試成績と入学後の成績調査に基づく入試制度の検討	○	○																	アドミッションポリシーに基づく入試方法の改善のため、入試成績、特に数学と入学後の成績の関係を調査することとした。(教務) 前期末の時点では実施していない。現在、学力入試に足切点を導入しており、特に対応の必要を認めない。(専攻)				入試運営委員会で、数学の合格最低点や科目による傾斜配点を検討している。(教務) 推薦入試、学力入試それぞれの学生について、修了時の成績調査を検討する。(専攻)	
17	I 1 (1) ⑤	数学診断テストの実施による入学者学力水準確認	◎															△			新入生に対し4月9日に実施した。結果としては昨年に続き平均点が2年連続で70点を超過しており、学力が維持されていることがわかった。(教務) 数学の新入生学力診断テストを実施し、入学者選抜結果と入学後の学業成績についての追跡調査を継続して実施した。(理)	A(教) A(理)	A		引き続き実施する。特に26年度は志願者の大きな減少があったので注意深く分析する。(教務) 数学の新入生学力診断テストを実施し、入学者の学力水準を確認するとともに、入学者選抜結果と入学後の学業成績についての追跡調査を継続して実施する。(理)	
18	I 1 (1) ⑤	英語外部評価テストの実施	◎															△			新入生に対し4月9日に、3年生に対して6月12日実施した。その結果、一定の学力の新入生を確保できていることが分かった。この結果については教務委員会で報告し全校での共有を図った。3年生に関しては、若干の2極化が見られた。今後、教務委員会で報告を行う予定である。(教務)	A(教) A	A		引き続き実施する。特に27年度は志願者の大きな減少があったので注意深く分析する。(教務)	
		入学動機に関するアンケート調査実施	○																		新入生に対し機構本部所定の質問事項のアンケートを4月末に実施し、機構へ報告するとともに5月15日開催の教員会議で概要を報告した。また、第2回学科長委員会(5月23日)に資料を提出した。(教務)	A(教) A	A		引き続き実施する。特に28年度は志願者の大きな減少があったので注意深く分析する。(教務)	
		過去の入試問題・解答の公表	○																		推薦入試(例年1月下旬実施)の適性検査(数学)の問題を平成23年度～平成25年度分について本校Webページに掲載している。学力入試については、同じく平成23年度～平成25年度分の問題と解答が掲載されている機構本部のWebページへのリンクを設定している。また、推薦、学力とも最近の問題残部を1日体験入学の際に希望保護者に配布している。(教務)	A(教) A	A		引き続き公開する。(教務)	
(2)教育課程の編成																										
19	認 1 1 ①	学校・学科・専攻科毎の教育目標の内容確認	◎	△																	平成25年度の教育目標については平成24年度中に検討し学科長委員会で審議・承認の上、学校要覧、学生便覧、本科募集要項に記載している。本年度はこれらを規則の形に整え、教務委員会および専攻科委員会の審議を経て、学科長委員会(第5回、9月12日)で「久留米工業高等専門学校の準学士(本科)課程における教育目的及び教育目標を定める規則」と「久留米工業高等専門学校の専攻科課程における教育目的及び学習・教育到達目標を定める規則」を定めた。(教務) 前期、JABEEの継続審査結果を一覧に集約した。後期JABEE委員会などと連携してJABEEの新基準との対応確認などを図る。(専攻) 学科長委員会において材料工学科の教育目標の内容確認を行った。(材料)	B(教) A(材)	A	A	学生、教員への周知を続けていく。(教務) JABEE2012年度基準で新たに設置された目標(チームワークに関する能力と材料工学科での教育目標との対応を図る。(材料)	
20	認 1 1 ①	学校・学科・専攻科毎の教育目標の教職員及び学生への周知	◎	△																	学校要覧と学生便覧に記載するとともに、本校Webページに掲載して、教職員および学生への周知を図っている。(教務) 専攻科の教育目的、目標を学則に従った規則として規定した。(専攻) 教育目標のパネルを作成し掲示し、カードを作成して学生に配布(生化) 材料工学科の教育目標のパネルを作成し掲示する。教職員・学生が目につくような箇所にパネルを設置した。(材料)	B(教) B(生) A(材)	A		学生、教員への周知を続けていく。(教務) カード配布は学年はじめに、継続して、実施予定。(生化) 材料工学科教職員ならびに学生への教育目標周知を目指す。(材料)	
21	認 1 1 ②	学校・学科・専攻科毎の教育目標の社会に対する公表	○																		学校要覧に記載するとともに本校Webページに掲載して、教職員および学生への周知を図っている。(教務)	B(教) A	A		学生便覧、要覧と記載内容にずれがある場合があったので、統一に注意する。(教務)	
22	認 5 2 ②	シラバスの作成と活用	◎	△																	平成25年度のシラバスについては、前年度中の平成24年12月20日に、平成25年1月16日締切りで作成を依頼した。各教員の入力にはWebでの入力とし、新年度開始時に教員全員に配布し、学生にはクラスホームルームに常備した。各教員は授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を必ず説明している。また、提出されたシラバスについて記載形式について教務主事室で統一を図った。(教務) 前期は特に活動なし。後期、新年度版作成にむけ専攻科として課題がないが、専攻科主事室で検討する。(専攻) 授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を必ず説明している。(材料) シラバスは一般理科教員の全員が作成し、授業の配分に役立っている。(理)	A(教) A(理) A(材)	A		記載形式について一層の統一を図る。(教務) 次年度も授業開始時にシラバスを使って授業計画と評価方法の説明を行う。(材料)	
23	認 5 3 ①	特別活動の実施	△	◎																	ホームルーム・1年から5年まで週1回、新入生の合宿研修4/26・27、クラスマッチ5/8・9、学生大会5/15、防災総合訓練5/22、文化部発表会6/22、東亜マイスター高校との交流会5/20(希望者)などを行った。(教務) ほぼ週に一度のペースで特別活動を実施し、教務関連事項や学生生活にかかわる情報を学生に周知している。そのほかにも交通講話・暴力団排除教育(1年生対象)、交通安全講習会(全学年対象)を実施した。また、就職活動支援としてビジネスマナー講習会(本科4年生・専攻科1年生対象)を実施の予定である。(学生主事)	A(教) B(学)	A		創基75周年創立50周年記念事業への参加を促す。(教務) 平成25年度同様特別活動を実施する。また、交通講話、ビジネスマナー講習会に加え、インターネットの被害防止、SNSマナー向上を目指し、ケータイ安全教室を実施する(1から3年対象)。(学生主事)	
24	認 5 4 ①	成績評価・単位認定・進級認定・卒業修了認定の学生への周知および適切な実施	○																		各科目の成績の評価方法はシラバスに明記している。また、単位認定や及落に関する規定は学生便覧に記載し全員に配布している。成績については、前後期、それぞれ中間試験と学期末の定期試験の成績を保護者宛に送付している。(教務)	A(教) A	A		後期定期試験の査定会議までの成績確認の方法を検討する。(教務)	
25	JB 5 (2)	編・転入生が他高等教育機関で取得した単位の評価と補講の実施	○	○									○	○	○	○					留学生時間割(教務) 各専門コースでその都度対応しており、専攻科として統一のものはない。一般に補講科目が多数に上ると補講の実施は困難になると考えている。(専攻) 専攻科機械コースに、大島商船高専から入学が1名あった。専攻科およびJABEE機械工学プログラムの修了要件を調査するため、大島商船高専での単位と本校機械工学科の単位の互換について、シラバス等により吟味した。その結果、生産工学に関する単位取得が必須であることが判明し、当該学生にその旨の履修指導を行った。(機械) 該当なし。(電気) 該当なし。(制御) 2013、2014年度該当無し(生化) 実績なし(材料) 該当事例なし。(専攻科)	A(教) A(機) D(材)	A	A	対象者があるばあいは個々の履修科目・内容について調べ対応する。(教務) 次年度も他高専からの応募があれば、対応する(機械)。 該当なし。(制御) 編入があれば対応(生化) 該当なし(材料)	
26	JB 5 (4)	専攻科生の学位授与機構への学位審査申請		○																	10月申請に向けてガイダンスを実施した。修了予定者全員が申請した。(専攻)	A(専)	A		平成26年度、新しい学士申請の方式への対応を進める。(専攻)	
27	JB 5 (4)	学位認定者のJABEEプログラム修了認定および認定の通知		◎																	前期JABEE委員会で、平成24年度修了者の認定を行い修了者に総務係から修了証書を送付した。年度当初のJABEE委員会で、前年度の修了者を確認し、総務係からJABEE修了証書を個人あてに送付するシステムになっている。(専攻) 2013年度未実施(生化) 専攻科卒業生に対してJABEEプログラム修了認定の通知を行った。(材料)	A(専) A(材)	A		平成26年度も本年度と同様に実施する。(専攻) 次年度もJABEEプログラム修了認定通知を行う。(材料)	
28	I 1 (2) ①②	教育課程表及び教務に関する規程の諸問の検討	◎							△											第3回教務委員会(7月11日)において、生物応用化学科の教育課程表の改正を承認した。また、第2回教務委員会(5月28日)にて「課外活動等による公欠の取り扱い」を定めた。(教務)	B(教) A	A	A	問題点の抽出をていねいに行う。(教務)	
29	I 1 (2) ①②	モデルコアカリキュラム検討による平成26年度シラバスへの反映	◎							△											平成25年度 第1回FD会議(6月19日)において前教務主事が「モデルコアカリキュラム(試案)への対応と本校の教育改善に対する私見」を講演し、平成25年度第2回教員会議(9月11日)において教務主事が平成25年度全国高専教育フォーラムで開催されたモデルコアカリキュラム(試案)導入ワークショップの報告を行った。これらの機会に平成26年度のシラバスにモデルコアカリキュラムを反映させていく計画であることを説明し、可能なものから反映させた。(教務) 25年度後期の作成予定の26年度シラバス作成の際に、必要に応じて反映させる予定。(教育課程部会)	A(教) A	A		引き続き、モデルコアカリキュラムの到達目標をシラバスに反映させていく。(教務)	

[最左欄] ローマ数字:年度計画に記載の項目 認(イタリック):年度計画にない機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画、機関別認証評価にないJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画、機関別認証評価、JABEEにない実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民T・C長	学生相談室長	教育支援室長	就職課主任	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	「◎」 「○」 「△」	△を取り纏めてコメント 該当者コメント記入 コメント未記入(◎と連携)	担当者 評価	項目別 評価	事項別 評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 「○」 「△」	△を取り纏めてコメント 該当者コメント記入 コメント未記入(◎と連携)
30	I 1 (2) ①②																								B(教)	A				求人数は高い倍率を維持している一方で、志願者が73名減少した。この原因を調べる。(教務)	
31	I 1 (2) ①②																								B(教)	A				学科によって志願倍率がさがったところがあり、その理由を調べ必要であれば、方向性検討に役立てる。(教務)	
32	I 1 (2) ①②																								B(教)	A				学科によって志願倍率がさがったところがあり、その理由を調べ必要であれば、方向性検討に役立てる。(教務)	
33	I 1 (2) ①②																								A(教)	A				学科によって志願倍率がさがったところがあり、その理由を調べ必要であれば、方向性検討に役立てる。(教務)	
34	I 1 (2) ①②																								A(専)	A				平成26年度、新しい学生申請の方式への対応で、インターンシップの実施方法の改善を進める。(専攻)	
35	I 1 (2) ①②																								B(教)	A				平成25年度は、機械工学科で准教授1名を受入れるとともに、制御情報工学科の教授1名が交流派遣中である。平成26年度については、4月11日付けで5月7日を締め切りとして希望調査を行った結果、佐世保高専より1名受入の予定である。(教務) 一般理科からは今年度高専教員交流の希望はない。(理) 2013年度交流無し(生化) H25年度交流無し(材料)	
36	I 1 (2) ①②																								A(教)	A				9月7日、佐賀市で有明高専、佐世保高専との合同学校説明会を開催した。この説明会では全体説明に77名(含む保護者)、それに続く個別相談には20名の参加があった。9月28日には福岡市で福岡県3国立高専(本校、有明高専、北九州高専)合同説明会を開催し瀬戸内3商船高専も参加した。また、九州内の高専からはパンフレットの提供があった。この合同説明会では、全体説明に190名(含む保護者)、それに続く個別説明には122名の参加があった。(教務)	
37	I 1 (2) ①②																								A(教)	A				久留米市内の4大学と大学等単位互換協定を締結し、平成25年度の前期については、久留米大学で6名、久留米工業大学で3名の専攻科生が単位互換履修生として受講した。なお、本校を希望した他大学の単位互換履修生は0であった。(教務) 後期、共同講義を実施するため久留米市内の高等教育機関と連携し開催調整と立案をした。後期に実施中の共同講義の受講者数は1名(延べ7名)となっている。(専攻) 高等教育コンソーシアムを介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工大・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との外部単位取得を推進。(産学民)	
38	I 1 (2) ③																								B(理)	B	B				テスト結果の分析により、年度ごとの新入生の学力を把握することが容易となり、入学者のレベルに合わせた指導方法を工夫することが可能となった。(理)
39	I 1 (2) ③																									C				「数学」「物理」は学習到達度試験の結果を仔細に分析することにより、学生の弱点を明白にし、その分野の授業方法改善に取り組む。(理)	
40	I 1 (2) ③																								B(理)	B				「化学」は今年度から廃液の見直しを行い、学生に廃液処理を徹底した。「物理」は関心を高めるというよりも、主に必要な知識・技術を身につけさせるという観点から項目を検討している。(理)	
41	I 1 (2) ③																								A(文)	A				外部評価テストは4月(1年生)と6月(3年生)に実施した。TOEIC IPテストも予定どおり4月、10月、1月に実施した。(文)	
42	I 1 (2) ③																								B(文)	A				一般科目(文科系)では、基礎学力の向上に重点を置き、恒常的に授業内容や指導方法の改善を行っている。(文)	
43	I 1 (2) ③																								B(機)	A				第2回授業改善専門部会(5月)において、一般科目と専門科目の連携について議論した。一部の科目や研究活動で専門と一般の連携が行われていることを確認した。(授業) 機械工学科は、物理系の学科であり、物理は重要である。また機械工学科教員が一部の物理科目を担当している。このような背景から、ごより教授内容について一般理科の物理の教員から情報提供を受けたり、機械工学から見た物理の重要な点などの情報交換を行った。また数学の教員と機械工学における数学について、情報交換を行った。(機械) 3E留学生対応について、数学科と連携し、特別補講を実施。26年度の実用物理について、授業内容と担当者について話し合い、方針を決定した。(電気) 学内の授業参観や、一般の教員と情報交換などで連携を図っている。また、一般の教員による数学の学習到達試験の結果解析を参考している。(制御) 工業倫理(本科3年)一般文科と共同して実施。また、生物応用化学科科会議に生化1、2年の担任に出席してもらい、クラスの様子を報告してもらっている。(生化) 前期成績発表後に担任懇談会を実施予定。11月に学級担任懇談会を実施した。(材料) 倫理担当教員が生物応用化学科教員と応用倫理の授業を共同開講している。また、外国人研究者を招いての特別授業に英語教員が協力した事例もある。(文) 機会ある度に専門学科の先生方と話をし、学生の状況や学習内容について情報を交換した。電気・電子工学科から、3E学生の数学の学力について相談があり、連携して、学生の学習支援に当たった。(理)	
44	JB 3 3 (4)																								A(機)	A	A				機械工学科では、5年生の機械要素設計実験という演習科目で、4年次までに修得した機械工学の知識を用いて、材料力学、流体工学、熱工学、機械工学などに関連の深い製品の設計およびその検証実験を行う。この科目の実施により、教員は共通の話題で各自の担当科目について、意見交換を行っている。(機械) 電気回路Ⅱと積分変換との間で、Laplace変換に関して調整。1年生の電気電子工学基礎に照して、2年生からの電気回路での内容に含めさせるため、複素関数についての授業方法をこれまでの関数電卓を利用する方式から、板書・演習重点方式に変更した。(電気) 学科では、制御の科目と情報の科目との連携として、ハードウェアの基礎からアプリケーションソフトウェアの開発までを1つのFPGA評価キットにて学習する取組を行っている。(制御) 授業改善会議を4月、10月に実施し、学年毎の進捗を共有するとともに、連携の問題点を話し合った。(生化) 教室会議などにおいて随時実施。教員の体調不良により科目間の調整を行った。(材料) 社会科では、学生の文章力を伸ばすために複数科目で試験を記述式にするなど、教員間で協議・連携を行っている。(文) 1年から3年次の数学と物理の科目間連携を図るための教員同士の情報交換会を開いた。数学と物理は内容に関連性が高いため、数学と物理を担当している教員が集まり、いつ頃どのような内容を学習するか、主に微分・積分・ベクトルについて物理では授業でどのように扱っているか等の情報を交換した。(理)
45	JB 3 3 (4)																								A(機)	A				機械工学科の教員が、電気電子、生物応用化学の2学科に機械工学概論の授業を行っている。また電気電子工学科の教員には電気電子工学概論を、生物応用化学工学科の教員には化学工学概論を、材料工学科の教員には機械材料学を担当した。(機械) 原級生の指導に関して、一般理科・文科と連携して対応を行っている。数学については、前期に補講を実施するなどの特的な対応を学科と科目担当・科目責任者と相談して執り行った。また、今年度から開講した低学年での実践演習における学生からの意見聴取により明らかとなった、一般科目に対する学生の要望を伝えた。(電気) 創造工学実験や産業デザイン演習などの授業で、機械工学科および電気電子工学科の教員と連携して学生を指導した。また、流体工学や材料学など他学科の専門内容を選択科目に導入し、学生の視野を広げることを図った。(制御) 機械工学科に化学製図、機械工学概論をお願いし、生物応用化学科が、化学工学の講義を担当している。定常以外の連携については、2013年度実績無し(生化) 特に実施せず(材料) 倫理担当教員が生物応用化学科教員と応用倫理の授業を共同開講している。また、外国人研究者を招いての特別授業に英語教員が協力した事例もある。(文・参照)選択科目の歴史学入門では、学生が発表する際に他学科の教員に出席してもらい、質疑に加わってもらっている。(文) 機会ある度に専門学科の先生方と話をし、学生の状況や学習内容について情報を交換した。(理)	

【最左欄】		教務主事	学生主事	事務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	「◎」 「○」 「△」	△を取り纏めてコメント 該当者コメント記入 コメント未記入(◎と連携)	担当者 評価	項目別 評価	事項別 評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 「○」 「△」	△を取り纏めてコメント 該当者コメント記入 コメント未記入(◎と連携)
46	I	1	(2)	④	学生の授業評価アンケート実施										○									24年度の学生授業評価アンケートを集計分析し、報告書にまとめた。25年度前期および後期の授業評価アンケートを実施した。今後集計する予定である。(授業)		A(授)	A		次年度も継続して実施する。また25年度分を分析し報告書にまとめる。(授業)			
47	I	1	(2)	④	学生の授業評価アンケート結果に基づく教員の自己評価実施										○									24年度の学生授業評価アンケートの集計結果を各教員に返却し、24年度の教員自己評価アンケートを実施した。集計分析後、報告書にまとめた。(授業)		A(授)	A		次年度も継続して実施する。また25年度分を分析し報告書にまとめる。(授業)			
48	I	1	(2)	④	授業改善を行うためのPDCAサイクル運用										○									24年度の学生授業評価アンケートおよび教員自己評価アンケート報告書を作成しウェブ上で公開し、情報を全教員で共有し、授業改善に役立てた。(授業)		A(授)	A		次年度も継続して実施する。(授業)			
49	I	1	(2)	④	卒業生・修了生アンケートの実施																			卒業・修了予定者に対してアンケートを実施した。(企画)		A(企)	A		引き続き実施する。(企画)			
50	JB	3	2	(4)	学生自身による達成度点検の実施											○	○	○	○	○				本科5年生の機械要素設計実験で、学生各自が設計したものの検証実験を通じて自らの達成度を実感させた。また専攻科機械コースの修了生には、修了時点で自己評価をさせている。(機械) 専攻科で実施。専攻科進学予定者には、4年生の成績までさかのぼって実施する予定。(電気) 学生に単位取得状況の確認を実施した。(制御) JABEE自己点検EXCELシートを作成し、学生に成績を入力してもらい、JABEE目標達成状況がグラフ化されるようにしている。4月に、2012年度分を実施し、教員のコメントを加えた。(生化) 4月に実施済み(材料)		A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A	B	本科5年生の機械要素設計実験と専攻科機械コースの修了生の修了時点で自己評価を継続して実施する。(機械) 例年通り、専攻科進学予定者には4年生の成績までさかのぼって達成度評価を行う予定。(電気) 今後も継続していく。(制御) JABEE自己点検EXCELシートを、4年間の目標のトレンドが分かるように改訂する。(生化) H26年度も同様に専攻科進学者に対して4月に実施予定。(材料)			
51	JB	3	2	(4)	専攻科入学生・修了生自身による総合達成度評価の実施																			各JABEEコースでの達成度の評価及び専攻科では終了時にアンケートを実施している。本年度も実施する。(専攻)		A(専)	A		平成26年度も本年度と同様に実施する。(専攻)			
52	JB	6	1	(1)	専攻科修了生の就職先企業によるアンケート調査実施																			平成21年度末に専攻科修了生およびその就職先企業にアンケートの依頼を行い、平成22年度初めに結果をまとめた。それ以降現在まで、専攻科のカリキュラムや企業の状況の目立った変化がないので、アンケート調査は行っていない。(機械) 実施予定なし(電気) 今まで数回実施した。(制御) 2013年度に前回調査後に終了した専攻科生と就職先企業にアンケートを実施する。(生化) 実施せず(材料)		A(機) B(制) B(生) D(材)	C		来年度予定なし。(機械) 21年度から5年目に当たる26年度に、専攻科修了生就職先を任意に選び出し、郵送によるアンケートを実施する予定。(電気) 来年度は調査の実施を検討します。(制御) アンケートの結果を分析、議論を経て、カリキュラム改訂に繋げていく。(生化) 過去に実施したアンケートについて精査し、実施の可否について検討する。(材料)			
53	I	1	(2)	⑤	全国的な競技会やコンテストへの積極的参加																			スポーツ関係では、団体としては女子バドミントン部・女子水泳(200mリレー)が全国高等体育大会に出場した。このうち、女子バドミントン部が準優勝となった。個人としては、陸上、バドミントン、ソフトテニス、水泳、剣道、柔道が全国大会に出場した。コンテストには、スーパーコン2013、フライングズ甲子園、全国高等専門学校ロボコンテスト2013、全国高等専門学校プログラミングコンテスト、全日本学生飛行ロボットコンテストに参加した。スーパーコン2013では本校から参加した「fimishimj」が優勝、全国高等専門学校プログラミングコンテストでは「避難Rou Ting」がブロードリーフ企業賞、全日本学生飛行ロボットコンテストでは「CRANE」がベストパイロット賞を受賞した。(学生主事)		B(学)	A	A	平成25年度同様、コンテスト等への参加を支援する。(学生主事)			
54	I	1	(2)	⑤	課外活動における外部コーチの活用																			現在文化局・体育局、あわせて36団体が活動しているが、そのうち13団体がコーチを導入している。(学生主事)		B(学)	A		各団体から要望があれば、コーチを導入し競技力の向上を図る。(学生主事)			
55	I	1	(2)	⑥	社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加推進																			学生会のボランティア活動として以下の項目を実施した。6月・献血、7月・校内清掃、10月・校内清掃・校外清掃 現在、3月に校内の清掃を計画している。(学生主事)		A(学)	A		平成25年度同様のボランティア活動を実施を計画している。平成25年度は初めての試みであったため、周知が十分でなく、参加者が少なかった。平成26年度は周知を徹底し、内容の向上を図る。(学生主事)			
56	I	1	(2)	⑥	1年生合宿研修の実施																			4月26日、27日に実施した。今年度は学生会主導に切り替えたため、集合時間5分前行動が実現した。(学生主事)		A(学)	A		4月25日、26日に実施予定。平成25年度は学生会のよい研修になることが実証された。平成26年度は学生会との事前準備をより綿密に行い、できるだけ学生会に任せられるようにしたい。(学生主事)			
(3)優れた教員の確保																																
57	認	3	1	①-③	教員の適正配置(教授・助教数・学校・学科教員数)											△	△	△	△	△	△	△		平成25年4月現在の校長を含めた教員定員79名に対し、現員79名であり欠員はない。職位別の定員と現員は教授36/28、准教授35/33、講師0/2、助教・助手7/15(フルタイム再雇用教員を含む)であり、助教の条件8名以上を満足している。また、教員数は一般文科12、一般理科11、機械工学13、電気電子10、制御情報10、生物応用化学12、材料工学10である。機械工学は他学科にも及ぶ機械加工実習や産業デザイン論を担当するため、また、生物応用化学は「生物コース」と「応用化学コース」の2コースを持つため、他の専門学科に比べて人数を多くしており、全体として教員はバランスよく配置されている。(教務) 休職者に関して対応(電気) 教授:6、准教授:5、助教:1(生化) 教授:5名、准教授:4名、講師:1名(材料) 教員の公募に当たり、再雇用の後任にまず助教を公募し、教員の適正配置を検討している。(理) 新規採用にあたっては、優秀な人材の確保に加えて学科内の人員構成にも配慮している。(文)		A(教) A(材)	A	A	定年退職予定者の後任について採用手続きを遅滞なく進める。(教務) H26年度は現員と変更なし。(材料)			
58	認	3	2	②	教員採用・昇格に関する基準・規定の適正運用											△	△	△	△	△	△	△		来年度4月1日付の採用の予定で現在の2名の公募を行っている。この採用では、人事連絡委員会にて公募要項の審議を経て公募し、審査結果も同委員会が審議の上承認という手続きをとり、高専教員としてふさわしい人物の採用を行っている。承認についても人事連絡委員会が慎重に審議している。(教務) 教授昇任1件(生化) H25.4.1准教授1名採用(材料) 教員の公募に当たり、再雇用の後任にまず助教を公募し、教員の適正配置を検討している。(理)		B(教) A(材)	A		規定を文書化する。(教務) H26年度は採用予定なし。(材料)			
59	I	1	(3)	①	公募制による教員採用											△	△	△	△	△	△	△		本年度4月1日付採用の教員6名も全員公募による採用であった。来年度4月1日付の採用の予定で2名の採用であるが、2名とも公募により採用選考を行っている。(教務) 該当無し(生化) H25.4.1准教授採用に当たっては公募を行った。(材料) 教員の公募に当たり、再雇用の後任にまず助教を公募している。(理) 定年退職者の後任を公募により選考・採用を行った。(文)		A(教) A(材)	A	A	公募を大原則として進める。(教務) H27年度採用に向け、公募の準備を行う。(材料)			
60	I	1	(3)	①	多様なキャリアを有する教員の採用											△	△	△	△	△	△	△		本年度4月1日付採用の教員6名の前職の内訳は、大学3、企業2(うち1名は外資系)、高校1と多岐である。来年度4月1日付採用をめざして現在選考中の一般文科・英語教員については修士以上とし、教育経歴、研究業績、学校運営の経験、外国の大学院での学位取得など多面的に評価している。また、一般理科・化学では博士号取得者(見込みを含む)という条件を最低限とし、教育と研究の両面から選考を進めている。(教務) 海外での在外研究員の経歴のある教員を採用した。(材料) 長年、高校で数学教育に携わられた教員を4月から採用した。(理:松田先生)		A(教) A(材)	A		各学科の事情に配慮しつつ、多様な人材を求めていく。(教務) H26年度は採用予定なし。(材料)			
61	I	1	(3)	②	高専間及び技術科学大学との教員交流実施											△	△	△	△	△	△	△		4月11日校長名で高専間、高専・高技科大間教員交流の派遣に関するアンケートを行った。希望があった場合は、学校として積極的に進める方針とした。実現には至っていないが、希望した教員には交流実現のためのアドバイスを行った。(教務) 該当無し(生化) 該当無し(材料) 一般理科では今年度、高専間及び技術科学大学との教員交流の予定はない。(理) 派遣1名:有明高専(制御情報工学科)、受入1名:大島商船高専(機械工学科)		A(教) D(材)	A	A	各学科の事情に配慮しつつ、交流を進める。(教務) H26年度は該当者なし。(材料)			
62	I	1	(3)	③	博士の学位同等(専門学科と一般理科)の教育能力を有する教員の新規採用											△	△	△	△	△	△	△		本年度4月1日付採用の教員6名は専門5名、一般理科1名であったが、も本年度採用の一般理科・化学では博士号取得者(見込みを含む)という条件を付している。(教務) 該当無し(生化) 新規採用に当たり、公募要件に学位を求めている。(材料) 新規採用に当たり、公募要件に学位を求めている。(理)		A(教) B(材)	A	A	学位取得者の採用は定着していると考えている。(教務) H26年度は採用予定なし。(材料)			
63	I	1	(3)	③	修士の学位同等(一般文科)の教育能力を有する教員の新規採用											△	△	△	△	△	△	△		本年度4月1日付採用の一般文科教員はなかった。来年度4月1日付採用をめざして現在選考中の一般文科・英語教員については修士以上としたが、博士号所持者が着任予定である。(教務) 該当無し(生化、材料)		A(教) D(材)	A		学位取得者の採用は定着していると考えている。(教務) H26年度は採用予定なし。(材料)			

【最左欄】 ローマ数字:年度計画に記載の項目 認(イタリック):年度計画にない機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画、機関別認証評価にないJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画、機関別認証評価、JABEEにない実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	「◎」 「○」 「△」	△を取り纏めてコメント 「◎」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者 評価	項目別 評価	事項別 評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 「○」 「△」	△を取り纏めてコメント 「◎」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
64	I 1 (3) ③																					専門学科の教員の87.3%が博士の学位を有している。また、一般理科については81.8%が博士の学位を有している。(教務) 博士の学位を有する教員100%(生化) 博士の学位を有する教員80%(材料) 一般理科は学位の教育能力を有する教員比率は81%である。(理)		A(教) A(生) A(材)	A		学位取得者の採用は定着していると考えている。(教務) H26年度は変更なし(材料)				
65	I 1 (3) ③																					一般文科の教員の83.3%が修士の学位を有している。(教務) 該当無し(生化、材料) 定年退職者の後任採用に当たり、博士号取得者を採用した。(文)		A(教) D(材)	A		学位取得者の採用は定着していると考えている。(教務) H26年度は該当なし(材料)				
66	I 1 (3) ④																					来年度4月1日付採用をめぐって現在選考中の2名の教員の公募要項には、「本校は男女共同参画を推進しており、女性の積極的な応募を期待します。」および「教育・研究の力量の評価において、同等と認められる場合には女性を積極的に採用します。」と明示している。また、12月に女子学生限定でインターンシップ参加を行い書類からの1名を含めて3名の参加があった。(教務) 該当無し(生化) 新規採用に当たり、応募資格に男性と同等以上であれば、女性を採用すると記載した。(材料、理)女性研究者研究交流会(高専機構主催)・第2回九州沖縄地区男女共同参画連携研修会に参加し、男女共同参画に向けて活発な議論・討論を行った(理、菟田)。 公募文書に女性の積極的な応募を期待し、同等の力量であれば女性を積極的に採用する旨記載した。英語教員の採用では応募者の45%が女性であった。(文)		A(教) A(材)	A	A	女子学生の増加への対応、女子学生のロールモデルとして女性教員の採用に努める。(教務) H26年度は採用予定なし。(材料) 新規採用に当たり、応募資格に男性と同等以上であれば、女性を採用すると記載する。女性研究者研究交流会(高専機構主催)や男女共同参画連携研修会などに参加し、男女共同参画に向けて活発な議論・討論を行っていく。(理)				
67	I 1 (3) ④																					高専教育フォーラムで開催された「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」(8月23日)と第2回九州沖縄地区男女共同参画連携研修会(8月26・27日)について、教務主事が両方に、女性教員1名が後者に出席した。これらの内容は第5回学部長委員会(9月12日)で教務主事が報告した。また、当日配布された資料は3人の女性教員へコピーを配布し、女性教員が働きやすい職場作りに取り組むこととした。(教務) ものづくり教育センターの改修において、女子トイレを新設した。(総務課)		B(教) A(総)	A		女性教職員として努めやすい職場環境は男性教職員にとっても働きやすい職場であることを意識して、改善に努める。(教務) 男女共同参画推進室を設置し、職場環境の整備に意見を反映させる。(総務課)				
68	I 1 (3) ⑤																					新任教員研修会(8月28日～30日)へ8名が参加した。留学生交流促進センター平成25年度留学生・国際交流担当者研究会へは教務主事補が1名、クラス経営・生活指導研修会(9月3日～5日)へ2名、高専教育フォーラム(8月21日～23日)へ5名を派遣した。また、英語授業講義力強化プログラムへも1名参加した。(教務) 新人教員研修に2名(松山、萩原先生)派遣(生化) 新人教員研修に1名(岩田先生)派遣(材料) 新人研修(松田先生、川崎先生)、全国高専教育フォーラム(酒井先生)に参加した。(理) 専攻科教員が「平成25年度高専専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)」に、金城教員が「平成25年度英語授業講義力強化プログラム教育評価研修」に、岡本教員が「平成25年度九州沖縄地区国立高等専門学校教員研究会」に、河合教員が「平成25年度 高専専門学校新任教員研修会」に参加した。(文)		A(教) A(生) D(材)	A	A	本務に支障のない範囲で積極的な参加を勧める。(教務) 機会を捉えて今後も実施(生化) H26年度は予定なし。(材料)				
69	I 1 (3) ⑤																					第1回FD会議(6月)をモデルコアカリキュラムと教育改善をテーマとして実施した。また、第2回FD会議(11月)にて各種の教員研修の報告会を実施し、情報の共有を図った。第3回FD会議(2月)では、学生相談室と連携して自殺予防に関する講演会を実施した。(授業)		A(授)	A		次年度も継続して実施する。(授業)				
70	I 1 (3) ⑥																					表彰委員会規則に基づき(1)講義、演習、実験・実習等の授業において、特に教育効果を高めた者、(2)学生指導、クラブ活動等学生への教育に特に功績があった者、(3)研究において顕著な業績を修め、外部から高い評価を得た者、(4)産学連携、地域連携、国際連携等により本校の社会貢献に特に功績があった者、(5)その他、本校の管理運営に対して特に功績があった者に功労賞を授与している。本年度は1月末日を締切りとして12月に募集を行ったが、推薦がなかった。(教務)		B(教)	B	B	事務職員及び技術職員についても規程を改正し表彰を進める。(教務)				
71	I 1 (3) ⑥																					①教員の自己点検評価、②教員による相互評価、③学生による教員の評価を基礎資料として、藤田教授を推薦した。(教務)		A(教)	A		積極的に進める。(教務)				
72	I 1 (3) ⑦																					平成25年度「国立高等専門学校教員の教育研究力強化FD」の区分B「世界教育研究動向調査プログラム」で1名の教員派遣が決定している。また、平成26年度の高専機構在外研究員へ1名が応募し、派遣が決定した。(教務) 該当無し(生化) 該当なし(材料) 平成26年度在外研究員として酒井先生から応募があり、申請が認可された。(理)		A(教) D(材)	A	A	積極的に進める。(教務) H26年度は予定なし。(材料)				
73	I 1 (3) ⑦																					獲得外部資金の一部を国際学会での発表、論文掲載のための原資とし、海外出張旅費、参加費、論文掲載料等を補助している。平成25年度前期は渡航旅費3件、参加登録料5件、論文掲載料3件に70万円余を支出した。後期は(追加予定)(教務) 1件「245th ACS National Meeting & Exposition (New Orleans, LA, April 7-11, 2013)」(生化) 国際学会で研究発表を行った。(田中先生)(材料) 国際会議で研究発表を行った。(理:酒井先生、菟田)		A(授) A(材)	A		制度を周知する。(教務) 機会を捉えて今後も実施(生化) H26年度は未定。(材料)				
(4)教育の質の向上・改善																															
74	認 5 2 ③																					財産権特論、創造工学実験で特許取得(教務) 前期、創造工学実験、産業デザイン、演習、産業財産権特論でカリキュラムに従い報告会を実施。次年度へ向けた資料収集につなげた。(専攻) 創造性育成を行う科目は、卒業研究、機械要素設計実験、プロダクトデザイン論、環境デザイン論である。これらの科目では、PBL教育を行っており、その過程において創造性が育まれる。今年度特別に変更、修正を行った点はない。(機械) 本科では、電気電子実践演習(旧、創造実験)と卒業研究、選択科目の産業デザインが該当する。(電気) 創造工学実験の授業では、学生に創造性を強く意識させて授業を行った。また、学生が提案したシステムや製品の創造性を確認し、特許取得を指導した。(制御) 2013年度40学生(49名)全員が、短期インターンシップに夏期休業中に参加し、9月に報告会を実施した。(生化) 創造工学実験、および卒業研究において、材料工学科に興味を持って中学生向けの教材開発のテーマで実施。完成度の高いものは、夏の体験入学で使用し、中学生の当日の反応を踏まえてさらに改良中、8月の一日体験入学にて実際に演習実験を行った。(材料) 一般文科では基礎学力と豊かな人間性を育むことに重点を置いているが、その一環として、論述式の試験、自分の考えや調べた内容を発表する授業などを通じて、思考力・表現力の向上を図っている。(文) 一般理科教員は、常に、教育方法の改善を行っている。(理)		A(教) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材) B(文) B(理) A(専)	A	A	様々な取り組みを学内外への発信に努める。(教務) 平成26年度も本年度と同様に実施する。(専攻) 来年度も例年どおり実施予定(機械) 従来通り、左記の科目で対応の予定。(電気) 今後いままでも通り続けます。(制御) 学部のサーバーの定期更新に努める。(生化) H26年度はH24およびH25年度の成果を踏まえて中学生向けの教材を開発する予定。(材料) 継続。(文) 一般理科教員は今後も教育方法の改善を続けていく。(理)				
75	認 9 1 ①																					5月15日開催の第1回教員会議において、出欠の把握、成績評価に用いた答案・レポート等の資料の2年間保存を確認した。(教務) 各コースにおける教科指導の答案などの保管を継続実施し定着を図った。平成25年度、専攻科にサーバーを確保した。関連する資料はサーバーと専攻科棟2階に保管している。(専攻) 専攻科修了生に修了時にインタビューを行っている。昨年度も2月末に行った。(機械) 例年通りやっており、特にコメントすべきものはない。(電気) 教員に対し授業アンケート調査を実施し、学生による教員に対する評価を行う。毎年度行うことで評価データを蓄積している。(制御) 学科内のファイルサーバーに、専門科目の答案、レポートのコピーがスキャナーにより取り込まれ分類されてデジタルデータとして保管されており、教員間で共有されている。コピー後の答案、レポートは、学生に返却されている。(生化) 常に実施中(材料) 試験の答案は文書または電子データとして2年間保存している。英語科では外部評価テストの結果を集計・蓄積し、分析している。体育科では学生の体力テストのデータを蓄積している。(文) 学生による授業評価アンケートにより、教員の教育方法の改善を行いつつある。各教員で、箱詰め・電子化などの手段で、保管・管理している。機会を見つけて学生の状況や授業の進捗など情報交換をしている。(理)		A(教) A(機) A(電) A(制) A(生) B(材) A(文) B(理) A(専)	A		機関別認証評価ではデータに基づく改善が求められた。(教務) 平成26年度も本年度と同様に収集と蓄積を継続する。(専攻) 例年通り、実施予定(機械) 従来通り行う予定。(電気) 今後いままでも通り続けます。(制御) 学科のサーバーの定期更新に努める。(生化) H26年度も同様の活動。(材料) 継続。(文) 今後も教育方法の改善を続けていく。また、成績・評価資料の保管・管理にも心がける。(理)				

【最左欄】 ローマ数字:年度計画に記載の項目 認(イタリック):年度計画にない機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画,機関別認証評価にないJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画,機関別認証評価,JABEEにない実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	事務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	教育課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	学生課	総務課	記入担当者報告用データ	◎ △を取り纏めてコメント ○ 該当者コメント記入 △ コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	◎ △を取り纏めてコメント ○ 該当者コメント記入 △ コメント未記入(◎と連携)				
76	認 9 1 ④																													授業評価アンケート(教務) 前期、後期、授業アンケートを専攻科科目に関して実施した。(専攻) 前期、後期、授業アンケートを専攻科科目に関して実施した。(専攻) 前年、後期、授業アンケートを実施し、各授業担当教員は成績評価とこのアンケート結果に基づいて自己評価アンケートを記載し提出すると共に、担当科目のシラバス作成、教材、進度、教授技術の改善に役立てた。アンケート結果は報告書としてウェブ上で公開し、全教員にフォーラムした。以上のことを継続的に行うことにより、授業内容、教材、教授技術などが改善され、また、結果報告書の公表によって個々の教員の授業改善状況を把握される。(授業) 専攻科修了生の就職先企業へのアンケート結果から、英語力が弱いことが確認された。そのことに対する対策と国際化の進展という観点から、今年度より5年生に選択科目「テクニカルコミュニケーション」1単位を導入した。(機械) 授業改善会議を行う予定(2月下旬～3月)。(電気) 学生の授業アンケートに対し、教員はその授業に対する意見を分析し改善すべき点を検討する。また、工夫した点や改善と考える点をコメントし、教務担当者に報告する。(制御) 授業改善会議を4月に実施し、学年毎の進捗を共有するとともに、連携の問題点を話し合った。その結果をもとに、次年度の教材の改善に繋げている。(生化) 学科会議で継続的に意見交換を実施(材料) 学生による授業評価アンケートは、随時参考にして授業の改善を行っている。また、独自に学生から授業に対する意見を聞いて参考にしてはいる教員もある。(文) 学習到達度試験やアンケート結果などを参考に、学生の状況を見ながら各教員で教材・授業に工夫している。(理)	A(教) A(機) A(電) A(制) B(生) B(材) A(文) B(接) B(理) A(専)	A		機関別認証評価ではデータに基づく改善が求められた。(教務) 平成26年度も本年度と同様に授業アンケートを実施する。(専攻) 来年度もテクニカルコミュニケーションを開講予定(機械) 学科としては、授業改善会議で授業改善の意識を啓蒙し、実際の改善は個々の教員が学生による授業評価アンケート等を元にして対応する従来の方針で臨む。(電気) 今後いままでも通り継続します。(制御) モデルコアへの対応と同時に、授業改善会議で抽出された改善点を、カリキュラムの改訂に繋がっていくことが、次期への課題である。(生化) H26年度も同様の活動。(材料) 継続。(文) 次年度も継続して実施する。また、報告書を基に授業改善状況を把握する。(授業) 今後も教材・授業の工夫を続けていく。(理)
77	認 9 1 ⑤																													従来から教員の研究成果のうち、授業に反映できるものは、反映してきたが、今年度はとくにない。(機械) 高専シンポジウムへの学生参加を奨励し、ポスター2件、口頭4件の発表を行った。(電気) 卒業研究や専攻科研究論文に関する研究では学生に自立的に問題の発見や解決を意図させることで教育の質の向上を図る。(制御) 学会発表、論文発表などを通して継続的に改善中(生化) 学会発表、論文発表などを通して継続的に改善中(材料) 授業内容や方法については、各科目で改善の取り組みを継続している。教員向けセミナーへの参加もしている。(文) 数学教材の研究を行い、教育の質の改善を行っている。(理)	B(機) A(電) A(制) B(生) A(材) B(文) B(理)	A		教育の質の改善に結びつく研究成果が出た場合には、授業内容に反映させる。(機械) 例年通りの対応を行う。(電気) 今後いままでも通り取り組めます。(制御) 専攻科の学位審査改訂に対応するため、学科教員全員が審査付論文投稿を実施していく(生化) H26年度も同様の活動。(材料) 継続。(文) 各教員で教材を研究し、教育の質の改善に心がける。(理)
78	認 9 2 ①																													全教員参加のもと、FD会議を年3回開催し、教員の教育内容及び方法について質の向上を図った。また、各種研修会へ教職員を積極的に派遣し、その一部をFD会議で報告し、全教員で情報の共有を図った。 また、保護者に対する本科の公開授業参観、教員の相互授業参観を実施し、教育の質の向上を図った。(授業)	B(接)	A		次年度も継続して実施する。教育の改善状況を把握する方法を検討する。(授業)
79	認 9 2 ②																													3月3日にSD会議を開催し、実験実習時の安全について再確認した。また、研修については総合損害保険プログラム研修会(10月23日)に参加した。その他の研修会についても積極的な参加を勧めている。(教務)	A(室)	A		継続してSD会議を実施し、積極的に研修参加を行う。
80	JB 6 1 (1)																													昨年度の中間審査結果での5コースに対する評価状況を一旦にまとめ、検討資料を確保した。3月に検討予定である。(専攻) 昨年度中間審査を受けており、その際に全般的に点検を行った。そのため今年度はとくに点検は行っていない。(機械) 専攻科における学生面談により部分的に改善。(電気) 今年度JABEE認証がないため未実施。(制御) 専攻科卒業生と就職先企業にアンケートを実施(生化) 継続的に実施中(材料)	B(専) B(機) B(電) B(生) A(材)	A	A	平成25年度末のJABEE委員会の内容を受けて平成26年度の対応を検討する。(専攻) 必要に応じて、実施する。(機械) 例年通りの対応予定。(電気) 該当なし。(制御) アンケートの結果を分析、議論を経て、カリキュラム改訂に繋げていく。(生化) H26年度も継続。(材料) * 下段と合わせ、項目を「JABEEプログラム学習・教育目標およびそれを達成するために必要な授業科目の流れ図の点検および開示」に変更する。
81	JB 6 1 (1)																													JABEE委員会などで3月対応予定。(専攻) コメントなし(電気) 今年度JABEE認証がないため未実施。(制御) なし(生化) 継続実施中(材料)	B(専) A(材)			平成25年度末のJABEE委員会の内容を受けて平成26年度の対応を検討する。(専攻) 該当なし。(制御) 継続。(電気) H26年度も継続。(材料) * 上段と合わせ、項目を「JABEEプログラム学習・教育目標およびそれを達成するために必要な授業科目の流れ図の点検および開示」に変更する。
82																														29巻1号 予定通り発行(9月/下)(図書館)	A(図)	A		次年度も予定通り発行する。(図書館)
83	I 1 (4) ①																													教育課程表等の改善検討専門部会において、昨年度末に調査した現行のシラバスとモデルコアカリキュラムの学習内容の到達度の適合度[3:(学習内容の到達目標のすべてに適合している)、2:(学習内容の到達目標の一部が適合していない)、1:(授業では実施していない)]調査の結果をまとめている。(教務) 現在、アンケート結果を集計・検討中。アンケート集計結果を基に、25年度は可能な範囲でシラバスにおいて、モデルコアカリキュラム対応を行うこととした。(教育課程部会) モデルコアカリキュラムと現在実施している科目との比較を全教員が行った。シラバスに反映できるものは反映することを確認(材料、理) 科目の到達目標や学習内容とモデルコアカリキュラムとの整合を図り、シラバスを作成している。(文)	B(教) A(電) A(材) B(理)	A	A	達成度評価が次の段階になる。(教務) 高専機種の状況のみならず、モデルコアカリキュラム対応(特にシラバス)を進める。(教育課程部会) H26年度も継続。(材料) 各自の検討結果を基に教員同士で情報を交換し、これまでも行ってきた各自の授業内容の検討を今後も続けていく。(理)
84	I 1 (4) ①																													記載事項なし。(教育課程部会) サーバーに機械工学実験、機械要素設計実験等の教育資料を保管しており、教員は相互に閲覧することができる。(機械) コメントなし(電気) 実施なし。(制御) 学習サーバーに、テストとレポートの結果のスキャン結果と教材(実験書)を保存、相互に閲覧可能。(生化) 特に実施していない(材料) 各教員が独自の教材等を作成しているが、データベース化はしていない。英語では基礎的な演習用の学習ソフトを購入し、全学生の学習履歴が把握できるようになっている。(文) 数学教材の開発を行いつつある。(理)	B(教) A(機) B(生) D(材) C(文) C(理)	A		機構からもICT教育の推進が求められると予想される。(教務) 引き続きサーバーへのファイルアップを継続して行う。(機械) 学科としての対応の予定なし。(電気) 該当なし。(制御) スキャニングのシステムは、XeroxのDocuWorksのシステムで構築し、10年分のデータスペースとなっている。コピー機更新時に、このシステムが継続されない場合は、紙媒体に変更予定。(生化) H26年度は調査・検討する。(材料) 新たな取り組みの予定はない。(文) データベース化はしていないが、各教員で教材を研究し、物理内で互いに情報を交換し、各自の教育・指導の参考にしている。今後もこのようにして教材の改善・教育の質の向上に取り組んでいく。(理)
85	I 1 (4) ①																													今年度も、校長裁量経費の学科への公募が未実施のため、スタートしていないが、公募があり次第取り組む予定である。昨年度は、「高度な実践的デザイン能力と工学的直感力を有する機械技術者の育成を目指す取組」を実施した。(機械) 前年度のまでの対応を継続中。新たに25年度の申請を継続して行い、スマートグリッドに関する学生教育システムおよびコミュニケーション能力向上についての取り組みを進めた。(電気) 学科では「制御の科目と情報の科目との連携として、ハードウェアの基礎からアプリケーションソフトウェアの開発までを1つのFPGA評価キットにて学習する取組」で校長裁量経費を取得し、今年度からその取組を実施する。(制御) 生物応用化学科3年生の「生物化学実験」中「細菌の観察及び解析」実験において、従来使用していた日本バイオメテック社の「APIテスト」に替えてシステム化を行い高度化を図った。創造的技術者を育成する生物応用化学科基礎系実験プロジェクトにしたがって、分光光度計を導入し、学生実験の高度化を図った。(生化) 中学生向けの演習実験装置の開発を継続実施中(材料) 平成23～24年度に校長裁量経費によって英語の多読用図書を購入し、学生貸出として購入した。授業で多読の導入を行い、休職中の課題として書評を書かせるなど、利用を促す取り組みを実施している。(文) 校長裁量経費に酒井先生より応募があり一部採択された。申請書に記載した計画に従い、「原子・分子の世界」を視覚化して、物質の物理的、化学的性質への理解を深めるための取り組みを進めている(理)	A(機) A(電) A(制) B(生) B(材) B(文) C(理)	A		来年度の校長裁量経費の方向、方針による。(機械) 25年度の申請内容に沿って、スマートグリッドに関する学生教育システムおよびコミュニケーション能力向上についての取り組みを進めていく予定。(電気) 今後数年間掛けて実施します。(制御) 導入機器の、学生実験での活用。(生化) H26年度は校長裁量経費を活用した公開講座を実施する予定。(材料) 継続。(文) 数学と物理の教員で教材の開発及び補助学生の育成に関する取組を行い、魅力ある公開講座を実施する。(理)
86	I 1 (4) ②																													授業改善専門部会で検討され、7月11日の第3回教務委員会において教員同士による授業参観を特に10月21日～10月25日の間に行うことを推奨することとし、全教員に周知した。(教務) 相互の授業を参観する方法が定められているが平成25年度は十分活用できなかった。(専攻)	B(教) C(専)	A	B	授業相互参観、FD会議参加等。(教務) 平成26年度相互授業参観の実施を図る。(専攻)
87	I 1 (4) ②																													PDCA(教務) システム自体の点検は、前期には実施していない。3月のJABEE委員会点検実施の継続を確認し課題があれば改善する。(専攻)	B(教) B(専)	A		機関別認証評価ではアンケートに基づく改善が求められた。(教務) 平成25年度末のJABEE委員会の内容を受けて平成26年度の対応を検討する。(専攻)
88	I 1 (4) ②																													平成25年度第2回教員会議(9月11日)において教務主事がモデルコアカリキュラム(試案)導入で推奨されている達成度評価の方法について説明した。(教務) 平成26年度は具体的な検討はしていない。達成度に関するアンケート項目など後期に検討が必要があれば改善する予定。(専攻)	B(教) C(専)	B		モデルカリキュラム対応では達成度評価が次の段階では求められる。(教務) 平成25年度末のJABEE委員会の内容を受けて平成26年度の対応を検討する。(専攻)

【最左欄】		学務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	学生課	総務課	記入担当者報告用データ	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
ローマ数字:年度計画に記載の項目 認(イタリック):年度計画にない機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画,機関別認証評価にないJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画,機関別認証評価,JABEEにない実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)	1																													
89	I	1	(4)	(3)												△	△	△	△	△				平成25年度生物応用化学コースが8月に開催した。(専攻) 平成21年8月26日(月)～8月30日(金)平成25年度専攻科・物質系サマールクチャー「ICTにより加速する生物・化学工学分野のテクノロジー」実施15名の参加(先端工学特論の受講者も含む)(生化) 該当なし(材料)	A(専) B(生) D(材)	A	A	平成26年度は各コース開催の予定なし。(専攻) 2年後に実施予定。(生化) H26年度は実施予定なし。(材料)		
90	I	1	(4)	(3)					○															九州沖縄地区の高等との単位互換。久留米市内にある5つの大学等との間で単位互換協定を結んでいる。また、校舎により「久留米の生活と環境」をテーマに、市民公開の共同講義(15回のうち本校教員2回担当)を開講している。(教務) 前期、専攻科学生が久留米市内の他大学の講義を受講した。(専攻) 後期には共同講義・市民公開講座を専攻科特論一般、先端工学特論の認定科目として実施した。(産学民)	B(教) A(専) A(産)	A		単位互換を引き続き行う。(教務) 平成26年度も継続して専攻科学生の希望者による久留米市内の他大学の講義を行う。(専攻) 2013年度を基本に推進する。(産学民)		
91	I	1	(4)	(3)					○															久留米市内の5高等教育機関が、「より緊密な連携」の下で地域高度人材育成事業を推進するために形成した高等教育コンソーシアム久留米を通じた活動を行っており、8月20日～23日に開催された「小学生と大学生のふれあい教室」に本校より4名の学生が参加した。(教務) 9高専連携事業で専攻科学生が他高専との連携企画に参加しタイへ短期渡航した。また昨年度海外インターンシップに参加した3名の専攻科学生が専攻科での報告会に参加した。(専攻) 高等教育コンソーシアム久留米の学生主体の活動として、夏休みの小学生指導等に参加した。(産学民)	B(教) A(専) A(産)	A		学生の視野を広げるために有用な活動と考える。(教務) 平成26年度も9高専連携事業への参加を進める。(専攻) 2013年度を基本に推進する。(産学民)		
92	I	1	(4)	(4)												○	○	○	○	○	○			高専教育フォーラムに参加し情報収集を行った。(教務) 高専教育フォーラムに参加し情報収集を行った。(専攻) 回収できる高専教育や各種フォーラム等の資料を入手できなかった。(企画) 機械工学科では、今年度とくに事例はない。(機械) コメントなし(電気) 該当事例については回収することで教員への周知を行った。(制御) なし(生化) 学科会議を通して情報を共有を図っている。高専シンポジウムを活用し、全国高専で材料系の教員との懇談を実施。(材料) 毎年、九州沖縄地区高専英語弁論大会の際に、英語教員の情報交換会が実施され、他高専の取り組みを参照している。また、COCEITの研究論文は英語教員全員に配布されている。(文) 教員会議等において、モデルコアカリキュラムの周知が行われている。高専シンポジウムにおいて、数学教育関連で、本校を始め他高専数校から研究発表が行われ、活発な議論が行われた。(理)	C(教) A(専) D(企) C(機) A(制) A(材) B(文) B(理)	A	A	他校の情報収集が必要であると感している。(教務) 平成25年度と同様高専教育フォーラムに参加し情報収集を行う。(専攻) 高専教育や各種フォーラム等の資料の入手方法を検討する。(企画) 機会があれば、行いたい。(機械) とくになし。(電気) いままでも通り行きます。(制御) H26年度は全国高専の材料系教員との意見交換を予定。(材料) 継続。(文) モデルコアカリキュラムのシラバスに沿った授業を展開する(理)		
93	I	1	(4)	(5)																				本関係部署対応表を作成し、担当ごとの実施状況記録を提出してもらうことにより、PDCAサイクルを適用するシステムを確立し、実施した。(企画)	A(企)	A	A	引き続き実施する。(企画)		
94	I	1	(4)	(5)																				本関係部署対応表に年度計画・JABEE・機関別認証評価・それ以外の独自の項目を取りまとめることにより計画的な改善を図るシステムを確立し、実施した。また、議事要旨をホームページ上にアップロードする体制を確立し、実施した。(企画)	A(企)	A		引き続き実施する。(企画)		
95	I	1	(4)	(5)																				自己点検報告書を提出し、書面審査及び訪問調査を実施した。その結果、一部改善を要する点の指摘があったが、全基準において「基準を満たしている」との評価を得た。(企画)	A(企)	A		平成32年度に受審予定。(企画)		
96	I	1	(4)	(5)																				1月29日に、自己評価書に基づく自己評価委員会を実施した。(企画)	A(企)	A		引き続き実施する。(企画)		
97	I	1	(4)	(6)												○	○	○	○					毎年ほぼ全員に対して実施している。今年度も実施した。(機械) 例年通り、希望者に実施。(電気) 毎年度実施している。(制御) 37名の参加(昨年度受講者1名を含めクラス全員の参加)(生化) 実施した。参加人数22名(材料)	A(機) A(電) A(制) A(材) A(材)	A	A	例年のとおり、実施予定。(機械) 例年通り実施予定。(電気) 今後も実施します。(制御) インターンシップ先の確保が年々困難になってきている。新規インターンシップ企業の開拓が必要。(生化) H26年度も継続。(材料)		
98	I	1	(4)	(6)																				専攻科インターンシップ先を確保10月より順次専攻科インターンシップを実施、2月に報告会を実施した。(専攻)	A(専)	A		平成26年度2年生の専攻科インターンシップ、新しい学位申請方式に合わせた1年生のインターンシップへの両方に対応を図る。(専攻)		
99	I	1	(4)	(6)																				後期、専攻科インターンシップの中で総合理工学府の研究室で実施する学生があり、試行的な形態とし実施した。(専攻)	B(専)	A		平成26年度、2年生及び1年生への対応を検討する。(専攻)		
100	I	1	(4)	(6)					○															10月22日開催予定の久留米リサーチ・パーク主催「久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会」に参加した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)		
101	I	1	(4)	(6)					○															機械工学科では、超微細気泡混入燃料によるディーゼル燃焼改善に関する研究、高機能性ソフトバイオコークスの開発などのテーマで地域企業との共同研究を行っている。(機械) また、生物応用化学科(本科)では、「空中浮遊菌の調査」、「新規樹脂の開発」、「排水浄化」に関して、地域企業との共同研究を実施している。(専攻) 専攻科1年の産業デザイン演習では、地域企業の協力により、6グループに分けた学生が、6社の企業の商品開発やデザイン活用について参画提案を行った。(産学民)	A(専) A(産)	A		平成26年度、専攻科の関連科目を継続実施する。(専攻) 2013年度を基本に推進する。(産学民)		
102	I	1	(4)	(7)					○															専攻科1年の産業財産権特論及び機械工学科のものづくり教育において、企業技術者の参加を得て、実践的な教育を推進した。(産学民)	B(産)	A	A	2013年度を基本に推進する。(産学民)		
103	I	1	(4)	(8)												△	△	△	△	△	△			4月11日付けで高専・両技科大間教員交流に関する希望調査を行った。対象は①満年齢が58才未満、②高専教員として3年以上の経歴を有する者で、技科大希望者が1名あった。この教員に教務主事が希望を尋ね、校長からの交流のためのアドバイスを伝えた。(教務) 全国高専テクノフォーラム(名古屋)に参加(生化) 全国高専テクノフォーラム(名古屋)に関先生が参加、長岡技科大・豊橋技科大・高専との3機関連携プロジェクトに川上先生、周先生、奥山先生が採択された。(材料) 一般科からは、今年度教員交流は行っていない。(理)	B(教) B(生) A(材)	A	A	希望する教員には募集前から準備を始めておくよう勧める。(教務) 継続して実施する(生化) H26年度は長岡技科大・豊橋技科大との3機関連携プロジェクトに参画予定。(材料)		
104	I	1	(4)	(9)												○	○	○	○	○	○			近年CADソフトでCAE(実現象のシミュレーション)まで可能になってきているので、機械要素設計実験等の科目では、それを活用したICT教育を行っている。(機械) 校長最良経費による取り組みに関連し、Skypeを利用した英会話教育を行うための準備を進めている。(電気) 導入や検討を実施していない。(制御) 汎用プロセスシミュレータgPROMS(英国PSE社)を実際に使用して、CAE技術利用の意義と方法論を理解・修得する化学工学特論を実施している。(生化) 実施していない(材料) e-learning教材を活用したCALLシステムの導入が完了し、来年度から本格的に使用する予定であるに向けて準備中である。(文) 各教員で、自分の講義形態に合わせて、適切に利用している。(理)	C(教) A(機) A(電) A(制) B(生) D(材) A(文) C(理)	A	A	機構からICT教育の推進が求められると予想される。(教務) 例年のとおり、実施予定。(機械) Skypeを利用した英会話教育を25年度の試用を受けて、26年度から実施の予定。(電気) 該当なし。(制御) ライセンス費用の捻出が課題で、補助金の申請をおこなっていく。(生化) H26年度も実施予定なし。(材料) 継続。(文) 他の事例を参考に、これまでも行ってきた各自の授業にどのように利用できるか検討を続けていく。(理)		
105	I	1	(4)	(9)					○							○	○	○	○	○	○			文部科学省から連絡のある注意喚起にはすべて検証を行っている。學術認証フェデレーションのテストフェデレーションは10月中旬に、運用フェデレーションは1月中旬に参加できるよう、設定した。年度末までに情報処理センターの放課後利用を可能にし、年度末までに無線LANの使用登録書を作成する予定。(情報) CAEを含むCADソフトは学生各自が1台のパソコンを用いて使用しており、教育効果を上げている。(機械) プログラミング、電気電子CADで利用。希望学生の対するNHK基礎英語の共同学習に利用した。(電気) プログラミングや情報通信実験などの授業は電子計算機システムを効果的に利用した。(制御) 生物応用化学科棟内に情報科対応室を有し、15台のPCを維持管理している。その中に、gPROMSやDNA配列操作ソフトBioEditなど生化特有のアプリケーションをインストールしている。(生化) 情報処理の授業で実施中(材料) 一部の英語の授業ではデジタル教材が付属したテキストを使用し、学内のPCを使って自学することを促している。また、CALLシステムの導入に伴い、LL教室に併設されたPC学習室の充実を図った。(文)	A(機) A(電) A(制) B(生) A(材) B(文) A(理)	A		例年のとおり、実施予定。(機械) 25年度同様の取り組みを行う予定。(電気) いままでも今後も継続します。(制御) ライセンス費用の捻出が課題で、補助金の申請をおこなっていく。(生化) H26年度も継続。(材料) 継続。(文) 学科教員のウェブページの編集を外部委託したいとの相談があった。セキュリティを維持したうえで利便性を向上できる方法を検討したい。(情報) 各自の状況に合わせて工夫し、利用していく。(理)		
106	I	1	(4)	(9)																	○		英語教材ソフトを使って学習を進めるCALLシステムを導入した。(文)	A(文)	A		導入したCALLシステムの活用を図る。(文)			
(5)学生支援・生活支援																														

【最左欄】 ローマ数字:年度計画に記載の項目 認(イタリック):年度計画にない機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画、機関別認証評価にないJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画、機関別認証評価、JABEEにない実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
107	認 7 1 ①		○																			入学式後約1時間、5学科に分かれて新入生に学科の紹介を行った。新入生に対して久留米高専の学生としての心構えを学ぶこと、学友・教員との親交を深めることを目的とする1泊2日の合宿研修(4月26日、27日)を行った際に、校長が「目標を定めて努力する」、教務主事と学生主事が「高専での学習と生活」という題目の講話を行った。また、5学科に分かれての学科紹介・クラス交流会で各学科で学ぶということの理解を深めた。(教務) 専攻科1年生には、入学時と宿泊研修時に、毎日の勉強時間の目安や心構えなどを伝えている。また新入生に実施、その他の学年について随時科目担当者が指導を行った。(電気) 授業ではシラバスの説明を必ず行う。(制御) 4年からのコース選択の説明会を実施した(生化) 新1年生、新4年生、および専攻科入学生に対してガイダンスを実施した(材料)	A(教) A(機) A(電) A(制) B(生) A(材)	A	A	単位修得が進まない学生へのガイダンスを考える。(教務) 例年のおり、実施予定。(機械) 25年度同様の取り組みを行う。(電気) いままでも通り実施します。(制御) 継続して実施する。(生化) H26年度も継続。(材料)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
108	認 7 1 ①		○																			前期、学生支援アドバイザー6名を任命し、このうち2名がそれぞれ化学と電子回路の学習相談にあたった。また、1名が留学生の日本語等の指導にあたった。(残り3名は就職及び進路指導を担当した。)(教務) 通常の担任や教科担当教員からの話を学生に行うなどしているが、体制整備について特段のことは行っていない。(機械) 上記のように随時指導を行うとともに、相談に来た学生に対して助言等を与えた。(電気) 学科のオフィスアワーを実施し学生の相談や助言体制を作っている。(制御) 学科のオフィスアワーを適宜実施し学生の相談や助言体制を作っている。(生化) 特には整備していない(材料) 一般科目教員の場合、授業時間や会議の都合で特定の時間帯にオフィスアワーを設定することは難しいが、学生に対してはいつでも気軽に質問に来るように呼びかけ、相談・質問等に応じている。(文) 授業のない時間に、学生が質問をしに来て、随時対応をしている。(理)	B(教) A(機) A(電) B(制) B(生) D(材) B(文) B(理)	A		学生支援アドバイザー制度を周知し、相談を勧める。(教務) 従来のおり、学生の指導を行う。(機械) オフィスアワーなどで時間を制約することなしに、学生が助言を必要とする時には随時対応を行う。(電気) 今後も実施します。(制御) 継続して実施する。(生化) H26年度も実施予定なし。(材料) 継続。(文) 今後も対応を続けていく。(理)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
109	認 7 1 ③																					TOEIC IP テストを前期は4月13日に実施し、84名が受験した。後期は10月1月に実施予定である。機械工学科では3D-CADのSolid Works資格試験であるCSWA、CSWPの試験を本校で実施する予定である。(教務) CADベンダーによるCADの技能検定を学科内で受験できるようにしている。また機械工学実験の有限要素法の授業を日本機械学会の計算力学技術者試験の公認講習会としているので、本科卒業により計算力学技術者初級の取得と2級の講習会受講が免除される。(機械) 学生自習室に各種資格試験参考書、教材等を設置している。(電気) 該当なし。(制御) 危険物取扱者(甲種)の受験奨励(5年生15名受験し3名の合格、QC検定の受験奨励(生化) 特には整備していない(材料) 英語科ではTOEIC、TOEFL、英検などの受験に備えるための相談に随時応じている。CALLシステム導入に際してTOEIC対策教材も購入した。(文) 大学院入試や大学編入試験を受験する学生が質問に来るので、各教員で対応している。(理)	A(機) A(電) B(生) D(材) A(文) C(理)	A		例年のおり、実施予定。(機械) 電気主任技術者試験について、あらたな参考書を導入する計画である。(電気) 該当なし。(制御) 非常勤講師の瀬上先生が継続して支援を実施する。(生化) H26年度も実施予定なし。(材料) 継続。(文) 学生1人1人状況が違うので、これまでのように各教員で対応していく。対応のための時間を増やしたいが、校務などにかかる時間が多く、時間の確保が今後の課題である。(理)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
110	認 7 1 ③		○																			外国の学校の学年暦と日本の学校の学年暦の違いから、学期途中で留学した場合、試験を受けてないためその学期を再び最初から行う必要があり、留学した年度を含めて2年卒業が遅れることとなる。これについて本校で、留学の場合に限って帰国後の履修に際して留学前の出席と中間試験を有効とする措置により、留学した1年だけの遅れで済むようにしている。また、直接留学ではないが久留米市主催のモデスト親善大使(教務) 外国留学を希望する、もしくは興味を示す学生に対しては、その学生の適性を見極めながら助言・支援を行っている。(文)	B(教) B(文)	A		留学しても留年しないで済む仕組みが学生から要望されている。(教務) 継続。(文)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
111	認 7 1 ⑤		○																			必要である団体にはコーチを導入し支援している。現在各団体からの設備面での意見を集約し、予算の許す範囲内で実現した。(学生主事)	C(学)	A		平成25年度も各団体の意見を吸収し、多方面からの支援(コーチや設備)を実現したい。(学生主事)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
112	認 7 2 ④										○											就職主任(就職希望学生)及び担任(進学希望学生)を中心に、学科教員全体で進路に関しての具体的な指導(個人面談や各種書類作成指導)を含む丁寧かつ親身な指導を行っている。(就職) 就職は学科就職主任が、進学は5年担任が指導している。それ以外に学生からの個別の相談は、学科の全教員が受けている。(機械) 例年通り実施。進路資料室に各種資料を用意するとともに、学生が進路情報を探しやすい環境(PC、プリンタ等)を整備した。特に、指導の必要な学生については、複数の教員で協議し、対応を行った。また、5年生に限らず、進路の相談に来た学生には随時相談に乗った。(電気) 学生進路指導室を設置し、就職担当や担任による就職指導を行う。また、進学に対するアドバイスは担任や研究室の指導教員が行う。また、学科長会議では学校全体の就職・進学状況が報告される。(制御) 就職支援は、就職主任が実施。進学は、5年担任が実施し、就職、進学とも100%の決定(進路未定者が無い)(生化) 担任、就職担当教員、研究室教員が適宜実施(材料)	A(就) A(電) A(制) A(生) B(材)	A		次年度も今年度と同様、学生の立場に立った丁寧かつ親身な指導を心がける。(就職) 例年のおり、実施予定。(機械) 例年通り実施予定。(電気) 今後も実施します。(制御) 新規就職先の開拓を、継続して実施する。(生化) H26年度も継続(材料)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
113	認 6 1 ③		○								○											就職状況については各学科の就職主任が常時把握・指導するとともに、毎月学生生活支援係が全体を整理し、就職委員会(4月、7月、10月、1月)に報告するとともに、第3回と第5回の学科長委員会(6月20日、9月12日)で報告した。進学状況については5年クラス担任が把握しており、同様に第3回と第5回の学科長委員会報告している。(教務) 就職に関しては、各学科内においては、学科会議等で適宜、学校全体としては就職委員会の席上、各学科、各専攻の就職状況を周知、把握し、対策等を協議している。進学についても、各学科内で学科会議において状況を把握し、各学科の状況を学科長委員会等で周知および把握し、問題点や課題を協議している。(就職) 就職内定および編入学合格については、教室会議等で定期的に報告があり、その都度最新の状況を把握している。(機械) 例年通り実施。学科会議において、担当者から随時報告。(電気) 毎回の教室会議では就職担当や担任が就職・進学状況を報告し、学科として状況を把握する。(制御) 就職希望21名中21名内定、進学希望19名中、国立大学14名合格、専攻科5名合格。2013年9月末で進路100%確定。就職、進学の合格は、学科会議で報告され、全教員が把握している。(生化) 教室会議、またはメールにて情報は学科内で共有(材料)	B(就) A(機) A(電) A(制) A(生) B(材)	A		定期的な学科長委員会へ報告する。(教務) 次年度も今年度と同様、学科内においては就職主任を中心に情報や問題点の共有を行い、学科間は就職委員会の席上、就職状況等の情報や課題の共有化を図り、きめ細やかな指導/助言を心がける。(就職) 例年のおり、実施予定。(機械) 例年通り実施予定。(電気) 今後も実施します。(制御) 就職担当は、短期で交代せず、5年程度を目処に交代を実施し、引き継ぎに関しても確実に引き継ぐ。(生化) H26年度も継続。(材料)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
114	JB 4 3 (1)		○	○																		留学生には日本人チューターを各1名選び学習や生活面の相談・支援にあたっている。また、留学生は学生寮に居住していることから、寮務主事室と寮生活支援係が支援している。毎土曜午前中には外部講師による日本語の学習時間を設けている。その他、外国人留学生と教職員の懇談会(4.25 留学生7、担任4、チューター5、校長3主事事務部長、学生課事務職員3、看護師1)を開催した。(教務) 寮生会主体による寮祭やBBQを計3回開催し、留学生を含めて寮生間の親睦を深めた。また女子寮では学習時間帯に寮母による留学生のための勉強会を実施した。(寮) 留学生が在籍するクラスの担任および学生のなかから選出されたチューターが、支援している。(機械) 特別体制でH25年度実施。特に数学については、数学科の協力の下、丁寧な指導を行った。その他の科目についても、その都度、学習状況の把握に努め、必要に応じて指導を行った。(電気) 該当なし。(制御) 本科4年ナンサーの相談員(生化) 担任、チューターを主体に支援を行っている(材料)	A(教) B(寮) A(機) A(電) B(生) A(材)	A	B	土曜日の午前に開講している外部講師による日本語の授業への出席を促す。(教務) 寮祭は継続して実施。留学生と日本人学生の交流の場を設け、異文化理解の場を提供するとともに、留学生の学習・生活面の支援強化を図る。(寮) 例年のおり、実施予定。(機械) 26年度の留学生の状況に応じて対応する。(電気) 該当なし。(制御) 留学生がいるときに対応。(今後3年間予定無し。)(生化) H26年度も継続。(材料)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
115	JB 4 3 (1)																				◎	予定どおり、1,450部発行し、学生、教職員及び外部機関へ配布した。(学生課)	A(学課)	A		平成25年度と同様に継続実施する。(学生課)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
116	JB 4 3 (1)		○																			およそ月に一度のペースで学生会と学生主事室の合同会議を開催し、学生大会等からの学生の意見を整理するべく活動している。現在、学生食堂のプラズマディスプレイの活用、中央執行委員会室へのLANの導入、リーダー研修会の実施などいくつか実現した。また、ウェブページの土曜日の使用にむけて計画中である。(学生主事)	A(学)	A		平成26年度も学生会との合同会議を実施し、学生の意見を吸収し、その意見を実現したい。(学生主事)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		
117	JB 4 3 (1)		○																			これらの情報提供についてはホームルームや掲示により行っている。本年度は入学料免除については3名、前期授業料免除については全額免除20名、半額免除5名、後期授業料免除については全額免除30名、半額免除5名が、厚生補導委員会が審議のうえ採択となった。(学生主事)	B(学)	A		平成25年度と同様に掲示・ホームルームにおいて周知連絡し、厚生補導委員会において、審議・決定する予定である。(学生主事)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)		

【最左欄】 ローマ数字:年度計画に記載の項目 ◎(イタリック):年度計画に機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画,機関別認証評価に記載の項目 空白(イタリック):年度計画,機関別認証評価,JABEEに実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民T/C長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当 者 評 価	項目 別 評 価	事項 別 評 価	◎(イタリック) △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	◎(イタリック) △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
118	JB 4 3 (1)		○											○	○	○	○	○				本年度4年生の工場見学は昨年度から計画されており、第3回教務委員会(7月11日)で最終的に計画が承認された。引率者説明会を9月17日に開催し、5学科とも9月24日～29日に実施した。低学年については、(教務)今年度は、4泊5日の日程で関東方面の工場を見学する、工場見学旅行を行っている。また3年生を対象に、比較的近隣の工場(目の出水道橋、三菱重工業長崎造船所)の見学を行った。(機械)4年の工場見学については、学校全体で書けば済む項目。2年生において、大電株式会社(久留米市)の工場見学を実施。(電気)毎年実施している。(制御)第一三共プロファーマ 平塚工場、東燃ゼネラル石油 川崎工場、コーサー 狹山事業所、森永乳業多摩工場の工場見学を実施。いずれも、本校からの先輩社員との懇談を設定。1年創造化学実験で、やまやコミュニケーションズ、福岡地区水道企業団 施設部 海水淡水化センターの見学、2年無機分析化学実験で旭製作所、3年有機化学実験で、九州大学大学院総合理工学府を見学した。(生化)1年生に対して工場見学を実施。年度末までにもう1回実施。4年生は工場見学旅行を実施。12月に1年生向けに工場見学を実施。これとは別に12月に4年生へ工場見学を実施。(材料)	A(教) A(機) A(電) A(制) A(生) A(材)	A	低学年については、他の授業への影響を考えつつ進める。(教務)例年のとおり、実施予定。(機械)低学年における工場見学、電力会社見学を計画中である。(電気)今年度も継続します。(制御)工場見学は、卒業生のいる企業を選択し、必ず懇談会を実施する。(生化)H26年度も継続。(材料)			
119	JB 3 2 (3)					○																7月に73号、12月に74号、3月に75号を発行し、全教職員および保護者に配布した。(企画)	A(企)	A	引き続き実施する。(企画)			
120	JB 3 2 (3)						○															予定通り第2号の発行準備中。リレー連載「古典への誘い」のタイトル名を自由設定とした(「古典への誘い」、「私と読書」など)。(図書館)	A(図)	A	対応完了。(図書館)			
121	JB 3 2 (3)		○																			前期中間試験の成績送付を7月22日に行った。この際担任による所見を付している。今後、前定期試験結果、後期中間試験結果、学年成績の送付を行い年間計4回の成績送付を行う。(教務)	A(教)	A	年に4回の通知を続ける。(教務)			
122	JB 3 2 (3)		○																			後援会総会(5月25日)の日の午後全クラスで保護者懇談会を実施した。参加者は本科375名(35%)、専攻科14名(21%)であった。また、個人懇談の出席者は本科204名であった。後期は11月初めの高専祭、体育祭の時期に行う予定である。(教務)	A(教)	A	可能な限りクラス懇談会、個別懇談を実施する。(教務)			
123			◎		△									△	△	△	△	△	△	△		卓越した学生に対する授業料免除実施基準を制定し、平成25年度は本科5年生 3名と専攻科2年生 1名の合計4名に対し、半額免除となった。また、本年度卒業生に対し、学生会・寮生会・課外活動等で輝かしい実績を残した学生に対し、卒業式において表彰の予定である。(学生主事)成績優秀者の該当があれば、その都度応募する体制をとっている。専攻科1年生の学会発表での優秀賞による授業料免除対象者を出した。(材料、理)	B(学) A(材) A(理)	A	平成25年度同様に学生の表彰を実施する予定である。(学生主事)H26年度も継続。(材料)			
124							○															年度初めの担任会にて申請方法を説明した。8月5日現在での申請件数は29件である。例年年度末に多数の申請があるが、年度末の担任会で説明する機会を逃したため、5年生と専攻科2年の担任にメールで連絡した。(情報)	B(情)	A	引き続き年度当初と年度末に担任会で案内する。(情報)			
														○	○	○	○	○	○			不定期な会議や突発的な学生指導等もあり、オフィスアワーを設けることは難しいが、教員は授業やとくに急ぎの仕事がないときには、随時学生からの質問や相談に応じている。(機械)設定していない(電気)毎年度オフィスアワーの時間を掲示している。(制御)オフィスアワーは設定していないが、教員が在室している限りいつでも実施している。(生化)設定していない(材料)業務の都合上特定のオフィスアワーを設けることは難しいが、一般文科の教員は、基本的に放課後や休憩時間は、いつでも学生の質問や相談に応じる体制をとっている。(文)各教員で、教員室の前に掲示したり、連絡先(教員室の電話番号やメールアドレスなど)を教えるなどの方法で、学生に自分の予定・都合が伝わるようにしている。	B(機) B(制) B(生) D(材) C(文) B(理)	B	従来の方法で、学生の相談、質問に応じるなどして、指導を行う。(機械)オフィスアワーを設定せずに、学生の来室に合わせて随時対応する。(電気)今年度も実施します。(制御)オフィスアワーを設けないが、いつでも質問に応じていくスタンスを継続していく。(生化)オフィスアワーの設定は困難であるが検討してみる。(材料)決まった時間にオフィスアワーを設けるには、放課後の会議削減等、学校としての条件整備が必要。(文)学生1人1人状況が違うのでこれまでのように各教員で対応し、可能な範囲で互いに協力し合っていく。(理)			
125	I 1 (5) ①								○													精神神経科医師及びカウンセラーなどの専門家と学生相談室員により、継続的な面接と支援を実施した。学生、あるいは担任より相談室員等に相談のあった事例に対して、必要に応じてカウンセラーのアドバイスを受けるが、個別の対応を行った。(相談室)	A(相)	A	A 精神神経科医師及びカウンセラーなどの専門家と学生相談室員により、継続的な面接と支援を実施する。次年度よりカウンセラーの人員を増員し、より相談しやすい体制を設ける。学生、あるいは担任より相談室員等に相談のあった事例に対して、必要に応じてカウンセラーのアドバイスを受けるが、個別の対応を行う。(相談室)			
126	I 1 (5) ①								○													学生を対象としたアンケート調査を5-6月に実施し、回答結果を夏休み前に担任に返却した。学校生活適応に問題を抱える学生や、コメント欄に気になる内容を記載した学生に対してはアンケート用紙に付録を付記し、担任に伝えた。今年度は、機構より通達があった自殺予防調査も兼ね、専攻科を含む全クラスにお手実施した。なお、仙台高専の先生の依頼による学生調査アンケートも実施した。(相談室)	B(相)	A	学生を対象としたアンケート調査を5-6月に実施し、回答結果を夏休み前に学生及び担任に返却する。学校生活適応に問題を抱える学生や、コメント欄に気になる内容を記載した学生に対しては担任と相談室が情報の共有をし見守っていきたい。(相談室)			
127	I 1 (5) ①								○													発達障害等の問題を抱える学生に関しては、科目担当教員、クラス担任、学生課員などの教職員の協力体制を必要に応じて構築している。(相談室)	B(相)	A	発達障害等の問題を抱える学生に関しては、科目担当教員、クラス担任、学生課員などの教職員の協力体制を、引き続き必要に応じて構築していきたい。(相談室)			
128	I 1 (5) ①								○													FD会議において例年実施している。昨年度は佐世保高専の先生を招いて「発達障がい学生の就労支援」について講演を行っていただいた。今年度は、久留米医大の先生を招いて「ゲートキーパー」による自殺防止～身近なうつから考える～」について講演していただいた。また、学生向けに、3年生を対象に「生きるためのヒント 人間関係とネットのトラブルを中心に」というタイトルで、カウンセラーの岡田先生に講演いただいた。(相談室)	A(相)	A	FD会議において例年実施している。今年度も後期に実施する予定である。25年にいじめ防止対策推進法が制定された法家のガイダンスと対応について講演や教職員への情報提供を予定している。また、自殺予防のゲートキーパー講演が好評であったため引き続き、具体的な対応等についての講演を予定したいと考えている。			
									○													学生支援アドバイザー(再雇用教員)に関しては、相談室長を中心として協力体制を形成している。(相談室)	A(相)	A	学生支援アドバイザー(再雇用教員)に関しては、相談室長を中心として協力体制を形成している。また、発達障害学生の学習支援対応についても依頼予定である。(相談室)			
129	I 1 (5) ①		○																			担任会で担任へ通知、掲示(教務)	B(教)	A	相談件数を把握する。(教務)			
130	I 1 (5) ①			○																		日課として21:00～23:00は自習時間に設定しており、そのうち週3回は上級生による下級生への勉強指導(TA制度)を実施した。ヘルスチェックキャンペーンでは各自の健康について、またクリーンアップキャンペーンでは美委員の指導の下に居室や共通箇所の大掃除並びに日頃のゴミの分別回収を通して5Sについて、それぞれ意識の向上を図った。(寮)	B(寮)	A	TAや6S活動を通して引き続き、寮生の全人教育に努める。次年度は特に寮生会の活性化を図りつつ、留学生との交流を深めることで、それぞれ寮生の自主性、国際性の涵養を目指す。(寮)			
131	I 1 (5) ①			○																		外国人客員教員、外国人留学生および海外留学経験を有する寮生による文化講演会を4回開催。またゴミ分別講習会、テーブルマナー講習会も各1回実施した。後期には和食作法講習会に約20名の寮生の参加を得て、和洋にわたる食文化を身に付けさせた。(寮)	A(寮)	A	これまで実施してきた行事を継続実施する。(寮)			
132	I 1 (5) ②		△				◎															屋上にソーラーパネル設置(館内に電力量ディスプレイ表示):電気電子工学科対応(図書館)	A(図)	A	A 対応完了。(図書館)			
133	I 1 (5) ②		△		◎																	寮整備経費(500万円)により食堂の冷蔵・冷凍庫の更新、玄関ドア、浴室照明、留学生祈祷室洗い場やトイレのウォシュレット化等の改修、女子寮へのエアコン設置を行った。また寮費の施設補修費でも食堂の更新補修、居室の費の更新等を実施した。来年度に向けて、留学生のための寄宿舎環境整備調査表は機構本部へ、また寮費による寮整備計画表は総務課へそれぞれ提出した。(寮)	B(寮)	A	寮費の計画的な支出による環境整備を継続実施する。(寮)			
134	I 1 (5) ②		○																			第3回施設環境委員会(8月28日)で平成26年度の営繕事業の要望提出を依頼した。第4回の施設環境委員会が審議し、11月に機構へ提出した。(教務)	B(教)	A	機構の方針にそった申請を行う。(教務)			
135	I 1 (5) ③		○																			日本学生支援機構奨学生の募集説明会を4月18日に実施した。(学生主事)	B(学)	A	A 平成26年度も実施予定である。(学生主事)			
136	I 1 (5) ③		○																			情報の集約は学生生活支援係で行い、ここから掲示による通知、または担任会を通してホームルームでの情報の提供を行っている。(学生主事)	B(学)	A	平成25年度同様、情報の集約は学生生活支援係で行い、掲示・担任よりの伝達により情報提供を行う。(学生主事)			
137	I 1 (5) ③		○																			掲示・担任会を通してホームルームによる情報の提供を行っている。加えて、ウェーブホルのプラズマディスプレイの使用が後期より可能となったので、できるだけ活用するように努めた。(学生主事)	B(学)	A	平成25年度同様に、掲示・担任会を通してホームルームによる情報の提供を行っていく。ウェーブホルのプラズマディスプレイについてはその活用方法を検討したい。(学生主事)			
138	I 1 (5) ③		○																			適宜、募集案内が届いた奨学金制度については掲示・担任会を通してホームルームによる情報の提供を行っている。(学生主事)	B(学)	A	平成26年度同様に、掲示・担任会を通してホームルームによる情報の提供を行っていく。ウェーブホルのプラズマディスプレイについてはその活用方法を検討したい。(学生主事)			
139	I 1 (5) ④									○												(就職に関して)組織的な調査は行っていないが合同説明会等で同席した他高専の担当者からお互いの状況や傾向等の情報や意見の交換をおこない、また、求人等で面談した企業担当者からは高専全般に対する採用状況等の情報を収集し本校学生の指導に役立てている。また、各校や様々な機関で開催しているキャリア教育研究会等に参加し情報収集や意見交換を行っている。(就職)	B(就)	A	A 次年度も今年度と同様、機会を捉えて、各高専の状況を把握していきたい。特に2015年度からは就職に関するタイムスケジュールが大幅に改訂されることが決まっているので各高専や機構本部等と連携を密にしその対応についても状況把握を行いたい。(就職)			

【最左欄】		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就業支援室長	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	学生課	総務課	記入担当者報告用データ	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	
140	I 1 (5) ④																							A(就)	A		7/17 福岡県仕事サポートセンターの協力の下、主として本科4年生に対する「就職準備セミナー」を開催し、学生の就職に関する意識を高めることを目指した。また5/26には、就職未定学生対象の企業説明会を本校体育館で開催した。後期には恒例の就職ガイダンス、ビジネスマナー講習会及びSPI対策模擬試験を実施するとともに、企業よりOB.OGを派遣してもらい、4年生及び専攻科1年生向けに懇談会を実施した。また例年九州工業大学で実施していた九州沖縄高専向けの合同企業説明会を今年度から本校第1及び第2体育館を会場に実施し(1/26)、百社近い企業が参加し大変盛況であった。その企画を通して本校学生だけでなく九州地区の高専学生の就職活動に寄与した。(就職)	次年度も今年度実施した各企画を実施し、これらの試みを通して学生の就職に対する情報収集や意欲・意識の涵養に努め、学生が爽やかな進路の選択ができるよう環境整備を行う。(就職)		
141	認 8 2 ①							○																D(図)	B	B		SciFinder導入を審議したが、反対意見が多く、要求を取り下げた。(図書館) (ブックハンティング等実績あり) 文献整理が不十分である。【企画委員会】	他の電子ジャーナルに関して継続などを検討する。(図書館)	
142	JB 4 1 (1)																							A(総)	A	A		安全衛生委員会委員による巡視及び産業医と衛生管理者による巡視を毎月定期的に行い、衛生面や安全面などからの点検を行った。また、不備な箇所は関係部署と連携し改善を図っている。平成25年度 改善実績 11件。(総務課)	男女共同参画推進室を設置し、職場環境の整備に意見を反映させる。(総務課)	
143	I 1 (6) ①																							A(総)	A	A		保有する施設の稼働率調査を(年1回)実施中。結果は施設環境委員会に報告すると共に施設の将来計画へ反映させる。(総務課)	今年度同様に実施。(総務課)	
144	I 1 (6) ①																							A(総)	A			安全衛生委員会において毎月の巡視を行う際、併せて施設の不具合箇所などについても点検を行い指摘対応表を作成し早期の保全体制を執っている。(総務課)	継続して実施する。(総務課)	
145	I 1 (6) ②	○	○												○	○	○	○	○	○				B(教) A(文) B(寮) B(機) B(電) A(制) B(生) B(材) D(理)	A	A		教室の机・椅子の更新を行った。(教務) 男子寮の浴室照明のLED化や居室内の畳の更新などを実施。また大掃除や寮外回りの除草、清掃を行い、寮内外の環境整備に努めた。(寮) CADソフトのバージョンアップ、CAD用PCの更新など、設計教育が支障なく行えるようにしている。ものづくりセンター新設にともない、研究室の場所の確保が懸念となっていたが、旧パソコン教室に移転することで、今年度の卒業研究の実施場所を確保した。(機械) 3年生の学生実験での安全メガネ装着の励行。(電気) 実験では安全指導を行い、安全の心得を配布している。また、教室の清掃、キャンパスの清掃活動は担任や学生課によって指導されている。(制御) 情報化対応室のOA用椅子を6脚更新、PC3台を更新、OSをWindows7からWindows8にアップグレードした。生物応用化学科第2実験室の椅子を50脚更新した。(生化) 職場巡視の指示に従い、継続的改善を実施(材料) 英語教育環境整備の一環として、新設されたLL教室の活用を図り、併設されたPC学習室等を使った学習設備(CALLシステム)を導入した。(文) 設備・環境に関しては、機会ある毎に問題点を指摘し、改善を提案している。(理)	継続して実施する。(総務課)	
146	I 1 (6) ②						○																	A(企)	A			施設整備キャンパスWG委員会を8回開催し、具体的案件を整理した。また、整理した内容を企画委員会で審議し、施設環境委員会に継続検討を依頼することとなった。(企画)	引き続き実施する。(企画)	
147	I 1 (6) ②	○																						A(教)	A			例年11月頃機構本部から行われる当精要求調査に向けて、第3回施設環境委員会で9月末を目処に施設関係へ要望があれば提出するよう昨年度の当精要求一覧を添えて依頼した。次回第4回施設環境委員会で順次付けを行い、12月18日機構へ提出した。(教務)	採択されるプランと書類の作成に努める。(教務)	
148	I 1 (6) ②																							A(総)	A			ものづくり教育センターの改修において、利用者に配慮した内容とした(総務課)	次年度においては、大規模改修の予定は無い。(総務課)	
149	I 1 (6) ②																							A(総)	A			電気料削減のため、改修を行う場所についてはできる限りLED照明を採用した。(総務課)	電気料削減のため、物品調達においては省エネ型の機器を調達する。また、改修を行う場所についてはできる限りLED照明を採用する。(総務課)	
150	I 1 (6) ②	○								○					○									A(教) A(機)	A			8月初めから9月中旬まで、改修される機械工場と機械実験室、電気・生化学実験室の機器・物品を仮置き場へ移動させた。この後10月中旬より工事が開始される予定で、3月中旬の完成、年度内の機器・物品搬入を完了する予定である。(教務) 今年度実習工場を含む広い範囲をものづくりセンターとして、再構築する。それにより大幅に機能の充実が図られる。(機械)	整備されたもの作り教育センターの活用が求められる。(教務) 他学科、教育支援室とも協力して、円滑な運営を行いたい。(機械)	
151	I 1 (6) ③	○								○														A(教)	A	B		本年度4月1日着任の新任教員6人へは同日午後の新任教員研修の資料として配付した。また、新任の技術職員3名へも配布した。(教務)	平成26年4月着任の教員に配布し説明する。(教務)	
152	I 1 (6) ③	○								○														A(教)	A			現在の「安全の心得」は平成22年3月に教育研究支援室で編集・発行したものである。本年度後期に改訂する計画である。(教務)	平成25年度版を配布し活用してもらう。(教務)	
153	I 1 (6) ③	○								○														C(教)	C			前期は機械工場工場の改修にともなう後期分実習の前倒し、工場内物品の移動等業務が多く不徹底であった。後期に行う。(教務)	ヒヤリハット報告の校内への周知方法を確立する。(教務)	
154	I 1 (6) ③									○														A(室)	A			3月3日にSD会議を開催し、実験実習時の安全について再確認した。(教務)	引き続き実施する。(支援室)	
155	I 1 (6) ③	○								○														B(教)	A			事務部長が8月に甲種防火管理新規講習を受講した。(教務)	適当な講習会に派遣する。(教務)	
2 研究に関する事項																														
156	I 2 ①-③						○																	A(企)	A	A			10月2日に科研費申請に関する説明会および外部講師による作成のポイントについての講演会を開催した。(企画)	引き続き実施する。(企画)
157	I 2 ①-③																							A(総)	A			80件以上の公募事業をWEB及び電子メールを活用して学内へ案内し、その中から31件の応募があり11件が採択された。(総務課)	引き続き電子メール等を活用して幅広く各種公募情報を周知する。(総務課)	
158	I 2 ①-③						◎								△	△	△	△	△	△				C(図) B(生) A(材) B(理)	A			特に図書館としては研究成果公表を促す措置は実施していない。紀要には前年度の研究成果公表状況を詳細に記載している。(図書館) 高分子学会、生物工学会、化学工学会など多数で発表している(生化) 日本金属学会など多数の学会で研究成果の発表を行っており、年度末でまとめて報告している。(材料) 数学、物理の教員が研究成果を学会に発表している。(理) 学生指導とのバランスを取りながら研究を行うことは容易ではないが、随時研究成果の発表を行っている。本年度著書[単著]出版 1件、論文[単著]発表 1件、学会発表 1件 (文)	例年通り、紀要に公表結果(学会・論文)を取りまとめて掲載する。(図書館) 査読付き論文に投稿していく。(生化) H26年度も継続。(材料) 各教員の状況に応じて対応していく。(理)	
159	I 2 ①-③								○															A(産)	A			産学連携テクノセンターの重点プロジェクト室利用者については、産学連携テクノセンター報2013により研究成果の公表を行った。(産学民)	2013年度を基本に推進する。(産学民)	
160	I 2 ①-③								○															A(産)	A			今年度も9月24日に2013年度版産学連携テクノセンター報2013を刊行した。(産学民)	2013年度を基本に推進する。(産学民)	
161	I 2 ①-③								○															A(産)	A			全国高専テクノフォーラムやイノベーションジャパン2013大学見本市にテクノセンターマネージャーや教員が参加し、産学連携に関する情報収集と人的ネットワークの拡充に努めた。(産学民)	2013年度を基本に推進する。(産学民)	
162	I 2 ①-③								○															B(産)	A			産学連携テクノセンターの重点プロジェクト室及び地域連携多目的室(中学生向け公開講座等)の利用により研究環境の充実を図った。(産学民)	2013年度を基本に推進する。(産学民)	

【最左欄】 ローマ数字:年度計画に記載の項目 認(イタリック):年度計画にない機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画・機関別認証評価にないJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画・機関別認証評価・JABEEにない実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	寮務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	学生課	総務課	記入担当者報告用データ	◎ △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	◎ △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
163	I 2								○													産学民連携テクノセンターの重点プロジェクト室は、若手研究者の研究環境の支援として活用されている。今年度は校長裁量系による若手研究者支援を推進し、42歳以下または着任後5年以内の若手研究者のスタートアップに重点を置いた支援を行った。(産学民)	B(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
164	I 2								○													地域の公設試である久留米リサーチパークや、産業技術総合研究所九州センターとの連携体制を強化し、6月に九州沖縄地区9高専と産総研九州センターの情報交換会、10月には久留米リサーチパークの久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会に参加発表を行った。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
165	I 2								○													本校における知財の活用を目指し、日本弁理士会九州支部との連携強化、テクノネット久留米を活用した産学連携などを推進し、有効かつ効率的な知財活用の在り方を検討している。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
166	I 2								○													9月24日に開催された、地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会において「知財の種を育てよう」を開催し3名の弁理士と1名の技術士を招いてのパネルディスカッションを行った。また12月には高専機構から講師を招き知財講習会を開催した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
167	I 2								○													9月のテクノネットとの共催となる知財フォーラムに参加した。今後、高専機構の知財講習会、久留米テクノ交流会、JST目利き人材育成プログラムなどの知財関連のイベントへの積極的参加を推進した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
3 社会との連携、国際交流等に関する事項																													
168	認 11 2																					機関別認証評価の自己点検評価書の内容をホームページ上に公開した。(企画)	A(企)	A	A	引き続き実施する。(企画)			
169	認 11 4								◎													学協会などで研究成果の発表は多数行い、社会に公表しているが、教育に関する研究は該当が無い(生化) 学協会などで研究成果の発表は多数(H24年度9論文、32講演)行い、社会に公表しているが、教育に関する研究は該当が無い(材料) 数学、物理の教員がその研究成果を学会に発表し、社会へ公表している。(理) 教育研究活動の対外的発表の機会として、昨年10月に設立した地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会を9月24日に開催した。また本校の教育内容の成果講評として新聞などのメディアでの情報公開を行った。(産学民)	B(生) D(材) B(理) B(産)	A		H26年度は教育論文が出るような環境を整備する。(材料) 各教員の状況に応じて対応していく。(理) 2013年度を基本に推進する。(産学民)			
																						学生会が実施した「リーダー研修会」、「校内のボランティア清掃」、「一番街清掃」の様子を久留米高専NEWSに掲載した。(学生) 学生がダウンロードする資料の更新を逐次進めた。(専攻) 寮に関しては、寮祭や各種講演会など寮生活の模様を今年度これまで14回に亘り久留米高専NEWSに掲載した。(寮) ホームページをPC及び携帯対応できるページに変更した。さらに、ウェブページ作成に関する責任者を明確にし、周知した。また、ガイドラインを作成するとともに外部委託によりホームページを制作した。(企画) 更新なし(図) 産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学連携活動の情報公開を逐次更新している。(産学民) 必要に応じて更新している。(相談室) 「企業の方へ」のページを通して、求人窓口において、担当者名等の就職関係各種情報を企業採用担当者に開示している。また就職・進学情報等のデータも常に最新のものに更新している。企業からの採用情報は迅速に学内専用のデータベースページにアップし、学生の就職活動に供している。(就職) 10月に学科のHPを更新した。(生化) 年度初めの教員の人事異動に伴いHPの更新を行った。HPの一新を企画し、岩田先生を担当として検討中。設備環境の不良による学習消化のためのHP整備ができなかった。(材料) 今年度から、新たに一般理科ホームページ管理者に谷先生を決め、更新を進めている。(理) 学科のホームページ担当者を決め、更新している。また、産学民連携テクノセンターが保有している各教員の研究者情報とのリンクを行っている。(文) 定例(月2回)の事務部打ち合わせにおいて、各係の情報更新について依頼を行った。(総務課長) 課外活動や寮の活動等について、随時HPの更新を行っている。(学生課)	A(教) A(企) A(寮) B(生) D(材) B(理) B(学課)	A		他校も参考にしやすいものにする。(教務) 今年度通りの取り組みを継続。(寮) 引き続き実施する。(企画) 産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学連携活動の情報公開を逐次更新する。(産学民) リアルタイムのHP更新を実施していく。(生化) H26年度はHPの整備を実施する。(材料) 平成25年度と同様に継続実施する。(学生課)			
																						今年度も9月24日に2013年度版産学民連携テクノセンター報2013を刊行した。(産学民)	B(産)	A	A	2013年度を基本に推進する。(産学民)			
171	I 3								○													産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学連携活動の情報公開を逐次更新している。(産学民)	B(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
172	I 3								◎													共同研究3件、受託研究1件(学科長委員会の報告の通り)(生化) 共同研究4件(企業2件、豊橋技科大・長岡技科大)実施中。長岡技科大・豊橋技科大・高専3機関連携プロジェクトに採択された。(材料) 一般理科の教員は、今年度共同研究、受託研究の受け入れはない。(理) 昨年設立されたテクノネット久留米や久留米市、久留米リサーチパークなどと連携し、積極的な共同研究の受け入れを行っている。今年度におけるテクノネット会員団体との共同研究は4件となっている。(産学民)	B(生) A(材) D(理) B(産)	A		共同研究は、継続して積極的に実施していく。(生化) H26年度も継続的に実施する。(材料) 2013年度を基本に推進する。(産学民)			
173	I 3								○													9月にテクノネット久留米が主催した知的財産フォーラムに参加した。今後、高専機構の知財講習会、久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会、筑邦銀行の久留米広域商談会の積極的に参加した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
174	I 3								○													今年度の全国高専テクノフォーラムにはテクノセンター・事務部・教員から5名が参加した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
175	I 3								◎													全国高専テクノフォーラムへの参加(生化) 全国高専テクノフォーラムへの参加(材料) 平成26年1月に久留米高専シンポジウムの開催に合わせて、一般理科から山崎先生がワーキンググループに参加している。(理) 全国高専テクノフォーラムやイノベーションジャパン2013大学見本市にテクノセンターマネージャーや教員が参加し、産学連携に関する情報収集と人的ネットワークの拡充に努めている。(産学民)	B(生) B(材) C(理) A(産)	A		今後も積極的に参加していく。(生化) H26年度も継続。(材料) 2013年度を基本に推進する。(産学民)			
176	I 3								○													9月24日に開催された、地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会において「知財の種を育てよう」を開催し3名の弁理士と1名の技術士を招いてのパネルディスカッションを行った。1月には第19回高専シンポジウムin久留米への協力をいただいた。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
177	I 3								○													高等教育コンソーシアムを介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工大・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との外部単位取得を推進。後期には共同講義・市民公開講座を専攻科特論一般、先端工学特論の認定科目として実施した。(産学民)	B(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			
178	I 3								◎													2013年8/12 化学への招待～楽しい生物・化学教室～(中学生39名、小学生27名参加)を実施した。(生化) ふれあい理工学展へ参加した(材料) 平成25年11月に物理教員がふれあい理工学展に参加した。(理)久留米市主催の市民講座「子供向け～へピア公開講座(平成25年8月1日(木)実施)に講師を派遣した(理:松田先生)。 小郡市・三井郡教育研究所主催の情報教育研修講座(6月12日)及び小学校教員研修会主催の実験・実技講習会(7月31日)において講演を行った。(産学民)	B(生) A(理) B(産)	A		継続して実施していく。(H26年度も実施予定)(生化) H26年度も継続。(材料) 協力要請があり、協力可能であれば来年度も参加したい。(理) 2013年度を基本に推進する。(産学民)			
179	I 3								◎													該当なし(生化、材料) 一般理科からは、佐賀県内小中学校への出前授業の検討はしていない。(理) 小中学生を対象とした高専テクノロジーの紹介について鳥栖教育委員会と協議している。(産学民)	D(材) D(理) B(産)	A		H26年度は実施予定なし。(材料) 2013年度を基本に推進する。(産学民)			
180	I 3									○												8月26日～28日に熊本高専において開催された九州沖縄地区国立高専技術職員研修に参加した。(支援室)	A(室)	A		平成26年度においても積極的に参加する。			
181	I 3								○													高等教育コンソーシアム久留米の小中高連携部会に参加し、学生主体の活動として、夏休みの小学生指導等に参加した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。(産学民)			

【最左欄】 ローマ数字:年度計画に記載の項目 ◎(イタリック):年度計画に機関別認証評価に記載の項目 JB(イタリック):年度計画,機関別認証評価にJABEEに記載の項目 空白(イタリック):年度計画,機関別認証評価,JABEEに実施している項目(赤は第2回企画委員会後追記)		教務主事	学生主事	専務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	教育支援室長	就職主任	教育課程部会	授業改善部会	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)	「◎」 △を取り纏めてコメント 「○」 該当者コメント記入 「△」 コメント未記入(◎と連携)
182	I	3							◎														2013年度も参加した(生化) ふれあい理工学展へ参加した(材料) 平成25年11月に物理教員がふれあい理工学展に参加した。(理) 11月に開催されたマナビランドへ6学科が参加した。(産学民)	B(生) A(材) A(理) A(産)	A		今後も継続して参加予定。(生化) H26年度も継続。(材料) 協力要請があり、協力可能であれば来年度も参加したい。(理) 2013年度を基本に推進する。(産学民)			
183	I	3																					機械工学科では、夏季休業中に中学生向け公開講座を2回実施し、社会人向け公開講座(CAD講座)を8月、9月、11月の3回実施した。(機械) 7月24日、25日の2日間、電気電子工学科主催の中学生向け公開講座「エレクトリックサマースクール」を開催。中学生23名の参加。上記の通り、3月29日(土)に小学生向け(募集12名の予定)「いっしょに、作ってみよう」ラジオを組み立てようを開催予定である。(電気) 2013年8/12 化学への招待～楽しい生物・化学教室～(中学生39名、小学生27名参加)を実施した。(生化) 一般理科において、中学生向け公開講座を7月下旬に実施した。受講状況は以下の通りであった。定員40名、受講者18名、満足度94%(満足度は、有効回答者のうち、1. 充分満足した。2. おおむね満足した。に該当する割合とした。アンケート実施は数学のみ)2日間かけて「数学コース」「理科コース」を受講してもらい、普段が受けている授業とは違った数学・理科を体験してもらった。例年、予定者数を越える応募があるが、今年度は予定数の約半分の20名弱であった。各学科が行う公開講座の日程調整をしていないので、複数の学科の公開講座が重なったことが原因の一つではないかと思う。(理)	A(機) A(電) B(生) A(理)	A		例年のとおり、実施予定(機械) 例年通り実施予定。(電気) 継続して実施していく。(H26年度も実施予定)(生化) 夏期休業中であっても公開講座を開催できる日が限られているため、開催日調整は困難であろうと考えられる。参加希望者の多寡を気にせず、要望があり開催可能であれば来年度も公開講座を開催する予定である。(理)			
184	I	3																					本校には歯車に関する設備が整っていることや研究者が多いことから、本年度も8月1日～8月2日の2日間、日本歯車工業会が主催するJGMAギヤカレッジの「基礎実習」分野の教育を担当し、実習を通して歯切りについての理解を深めさせた。本年度は全国から23名の参加者があった。(機械)	A(機)	A		例年のとおり、実施予定(機械)			
185	I	3																					平成25年度ゴム技術講座(平成25年6月19日)へ講師派遣1名(生化)	B(生)	A		継続して実施予定。(生化)			
186	I	3																					8月に実施(材料)	A(材)	A		H26年度も実施予定。(材料)			
187	I	3							○														産業財産権特許の講義で連携実施した。(専攻) 産業技術総合研究所九州センターとの連携体制を強化し、6月に九州沖縄地区9高専と産総研九州センターの情報交換会を開催、9月24日に開催された、地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会において「知財の種を育てよう」を開催し3名の非理士と1名の技術士を招いてのパネルディスカッションを行った。(産学民)	A(専) A(産)	A		平成26年度も継続実施する。(専攻) 2013年度を基本に推進する。			
188	I	3							○														今年度より産学民連携コーディネータとして三島氏が着任し、JSTコーディネータネットワークや、高専ネットワークへ積極的に関与している。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。			
189	I	3							○														今年度2014年1月24日に九州沖縄地区高専テクノセンター長会議を本校にて開催した。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。			
190	I	3								○													社会人向け公開講座(CAD講座)を8月、9月、11月の3回実施した。(機械)	A(機)	A		例年のとおり、実施予定(機械)			
191	I	3							○														今年度より産学民連携コーディネータとして三島氏が着任し、高専ネットワークへ積極的に関与している。(産学民)	A(産)	A		2013年度を基本に推進する。			
192	I	3							○														本年度、教務主事を委員長とする準備委員会を5回開催し、第4回学科長委員会(7月25日)で実行委員会の設置を決定し、第5回学科長委員会(9月12日)で校長を委員長とし主事、学科長、事務部長等から構成される実行委員会を決定した。今後この実行委員会が重要事項を審議・決定すると共に、実行委員会のもとに設置される作業部会で、記念式典、記念講演会、祝賀会、記念誌発行、その他事業の計画と実施を行う。(教務)	B(教) A(専)	A	A	具体的準備を進める。(教務)			
193	I	3							○														本校の教職員4名が同窓会の学内理事、監事を務め、同窓会の運営に日常的に協力している。また、6月29日開催の同窓会評議員会へ校長(名誉会長)、事務部長および5主事(教務、学生、専務、専攻科、企画)が出席した。次回11月3日開催の評議員会へも出席予定である。さらに、同窓会支部の総会へは前期、福岡、北九州、東海各支部へ学内理事が出席し、後期にも関東および関西支部へ出向く予定である。(教務)	A(教)	A		創基75周年創立50周年記念事業を利用して一層の充実を図る。(教務)			
194	I	3							○														8月17日～31日に開催された英語キャンプに生物応用化学科3年生が1名参加した。(教務)	A(教)	A	A	学生の国際化のため積極的に進める。(教務)			
195	I	3							○														10月24日にタイ高校生(15名)が訪問し、学内見学及び本校学生との交流を行った。12月18日にマレーシアMUM(12名)が訪問し、学内見学及び本校学生との交流を行った。9高専連携事業における国際交流の活動参照。(企画)	A(企)	A		引き続き実施する。(企画)			
196	I	3																					King Mongkut's Institute of Technology LadkrabangよりAssistant Prof. Dr. Kuntpong Woraratpanyaを5月6日より5月31日の間外国人研究者として招聘した。(教務) 前期1名の教員を招聘し専攻科2年生の技術英語(機電専攻)で共同教育を実施した。(専攻)	A(教) A(専)	A		つながりを維持、発展させる。(教務) 平成26年度も外国からの教員及び学生の一時受け入れについて検討する。(専攻)			
197	I	3																					今年度は、周知したが学生の応募はなかった。(専攻)	B(専)	B	B	平成26年度も学生に周知推進に努める。(専攻)			
198	I	3							○														8月26日～9月7日のタイ・バンコクにおける学生交流に、引率者とは別に教員1名が同行しインターシップ環境を調査した。(教務)	A(教)	A		活動が本格化しており、校内の体制を充実させる。(教務)			
199	I	3							○														本校の5学科はいずれも募集人員を若干名として外国人学生対象の3年次編入学試験へ参加している。(教務)	B(教)	A	A	日本人学生の国際化のために推進する。(教務)			
200	I	3							○														平成25年度 留学生・国際交流担当者研究会(7月29日、30日)へ教務主事より教員1名を派遣した。(教務)	B(教)	A		留学生で成績不振者が散見される傾向にある。(教務)			
201	I	3							○														在籍する外国人留学生7名全員が引率教員2名と共に、宮崎県で開催される平成25年度九州沖縄地区留学生交流研修会(10月19日～20日、担当都城高専)へ参加した。(教務)	B(教)	A		引き続き全員の参加を勧める。(教務)			
4 管理運営に関する事項																														
202	JB	6	1	(3)																			情報公開並びに適切な公文書管理のため、各委員会等の議事録等について集中管理を行うためのWEBによる環境を整えた。 平成25年6月20日に委員会議事録等の掲載に関する要項を決定し、平成26年3月より運用を開始した。(総務課)	A(総)	A	A		要項に基づく運用を継続する。(総務課)		
203	I	4																					次年度実施に向け、管理委託費(単価契約)の見直しについて検討した。(総務課)	B(総)	B	B	本年度の検討結果に基づき、平成26年度において実施する。(総務課)			
204	I	4																					機構本部作成のコンプライアンス・マニュアル等を用い、定期的に教職員へコンプライアンスの周知を図る。 平成25年11月にコンプライアンスに関するセルフチェックリストを全教職員に配布し、対象者全員がセルフチェックを実施した。(総務課)	A(総)	A	A	引き続き100%の回収率にてセルフチェックを実施する。(総務課)			
205	I	4																					会議や科研費説明会などにおいて全教職員への意識啓発を図る。 平成25年10月2日開催の科研費説明会において、研究費不正について説明するとともに、欠席者には説明資料を配布した。また、平成25年11月にコンプライアンスに関するセルフチェックリストを全教職員に配布し、対象者全員がセルフチェックを実施した。(総務課)	A(総)	A		引き続き科研費説明会等の機会を通じて研究費不正に関する啓発を行うとともに、100%の回収率にてセルフチェックを実施する。(総務課)			
206	I	4																					これまでの指摘事項等を踏まえ、事務処理体制を不断に見直し。(総務課)	A(総)	A	A	継続して実施する。(総務課)			

